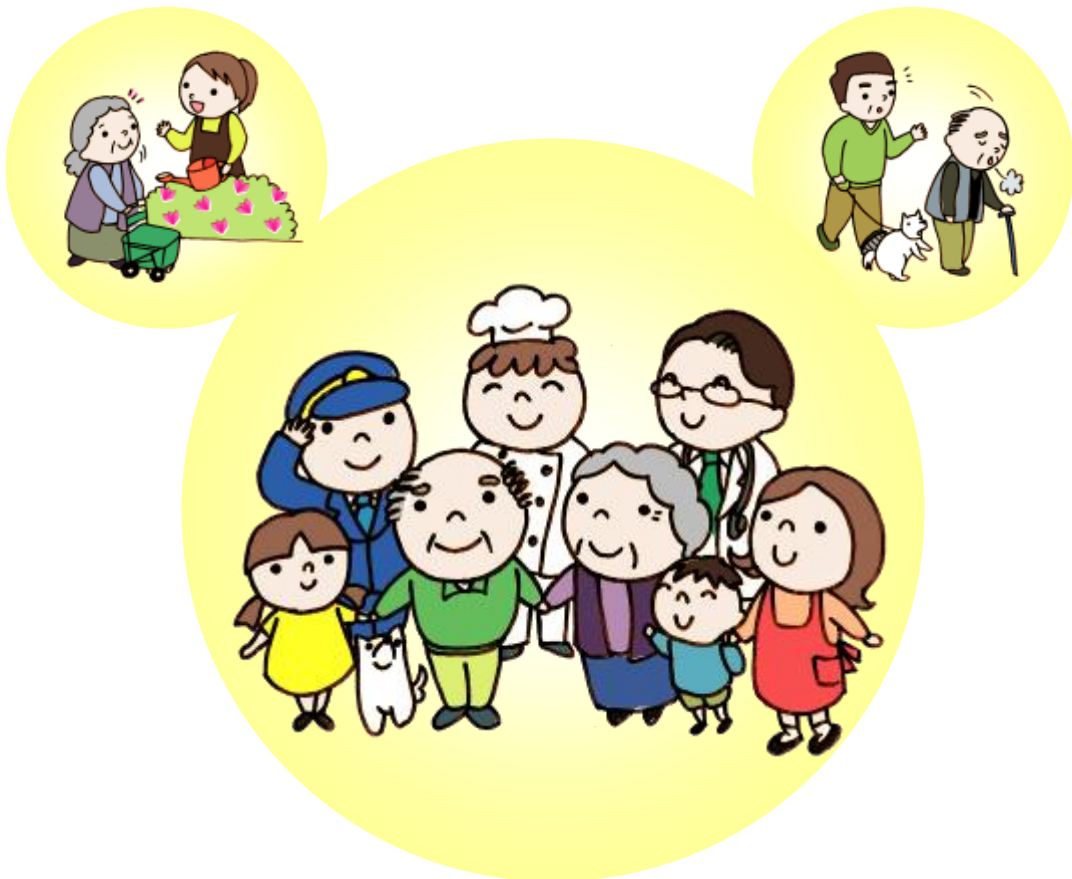


平成 25 年度
認知症高齢者支援（高齢者虐待防止対策）事業
実施報告書



平成 26 年 3 月
日野市健康福祉部高齢福祉課

目 次

1. 事業の概要	1
(1) 事業の位置付け	3
(2) 事業の目的	4
(3) 事業の全体像	4
(4) これまでの事業展開	5
2. 実施体制と事業推進方策	7
(1) 事業推進体制	9
(2) 事業推進方策	10
1) 事業体系	10
2) 進捗管理手法	11
(3) 推進会議の開催	15
(4) 専門部会の開催	16
1) 専門部会の取組み	16
2) 専門部会の開催詳細	16
3. 専門部会による事業の推進	21
(1) 認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備	23
1) 認知症家族介護者支援講座	23
2) 認知症家族介護者交流会	31
3) 認知症地域資源マップの作成	35
(2) 一般市民に対する認知症や虐待防止等の理解促進	38
1) 認知症啓発講座	38
2) 認知症サポーター養成講座	44
3) 虐待防止啓発	46
(3) 介護サービス従事者等の資質向上	49
1) 介護サービス従事者研修	49
(4) 関係機関のネットワーク構築	56
1) 関係機関連絡会	56
2) 虐待防止マニュアルの改定	58
3) SOS ネットワークの充実	59

4. 事業推進の成果と課題.....61

(1) 事業評価.....61

(2) 次年度の方向性.....61

【資料編】67

(1) 日野市の虐待受付状況.....69

(2) 日野市の徘徊対応状況.....70

(3) 平成25年度までの取組み.....72

(4) 講座ちらし.....74

(5) 認知症サポーター養成講座 開催詳細.....77

1. 事業の概要

本市では、平成 18 年度より、認知症高齢者支援及び高齢者虐待防止対策について、東京都福祉保健区市町村包括補助事業の補助を受けて事業の展開を図ってきました。

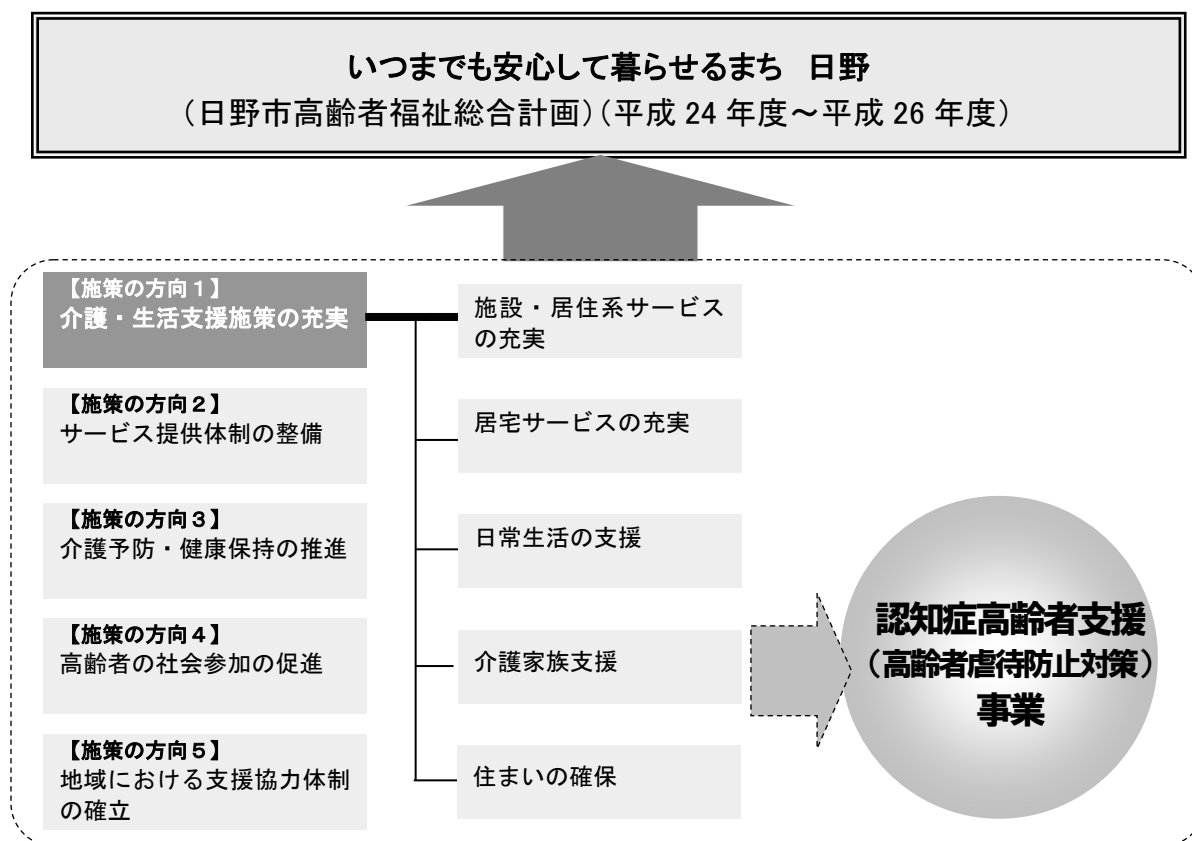
当初、認知症家族介護者交流会や認知症サポーター養成講座などから始まった本事業も、近年では、広く一般市民を対象とした認知症啓発講座や介護サービス従事者を対象とした研修、関係機関の連携強化、更には、認知症高齢者やその家族のための「地域資源マップ」の作成検討など、幅広い事業展開をしています。

(1) 事業の位置付け

平成 24 年 6 月、「介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」において、介護保険サービス、介護予防及び生活支援の各施策を、医療及び住まいの施策との有機的な連携を図りつつ包括的に推進することが規定されました。

これを受け、日野市では、「日野市介護保険事業計画」および「シルバー日野人安心いきいきプラン」を統合するとともに、新たに「高齢者居住安定確保計画」を策定し、3つの計画を統合した、「日野市高齢者福祉総合計画（平成 24 年度～平成 26 年）を策定しました。

本計画において「認知症高齢者支援（高齢者虐待防止対策）事業」は、計画期間中特に集中的・重点的に取り組むべき施策群である「リーディングプラン」に位置づけられており、施策体系においては「施策の方向 1：介護・生活支援施策の充実」の「介護家族支援」を実現する事業となっています。



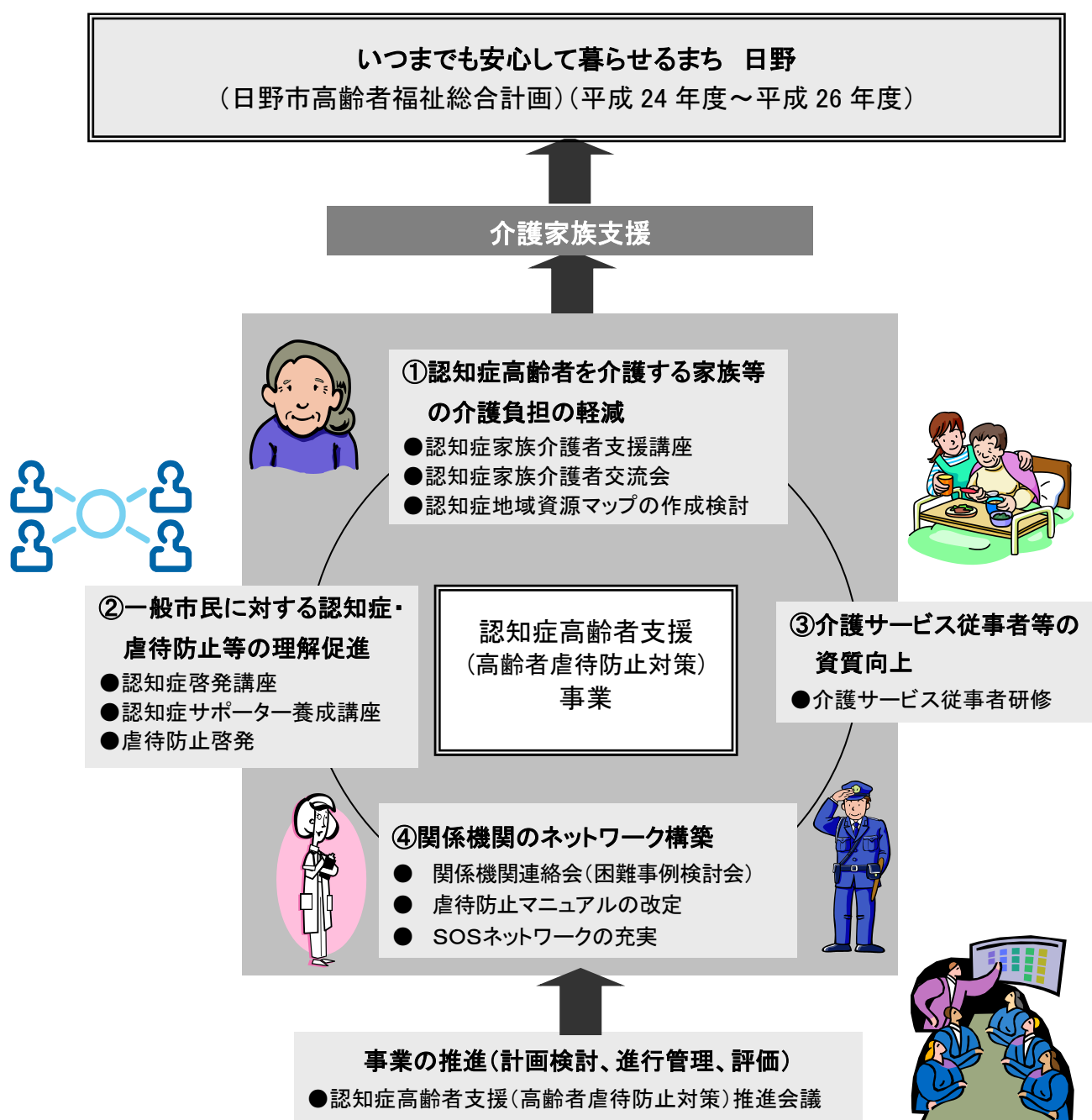
(2) 事業の目的

長寿化の影響により、認知症高齢者や、加齢による心身機能の衰弱により虐待などの権利侵害を受けやすい状況や環境で生活している高齢者が増加傾向にあり、今後更に増えることが予測されています。

本事業は、認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳を持って地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりを進めることを目的としています。

(3) 事業の全体像

本事業は、「介護家族支援」を実現する事業として、次の①～④の4つの柱で構成されています。地域包括支援センターが中心となり、柱ごとに取組みを展開します。



(4) これまでの事業展開

平成 18 年より、認知症高齢者支援と高齢者虐待防止対策を目的とした個別の事業として展開されてきましたが、平成 22 年より、認知症高齢者と高齢者虐待の相互関連性などを踏まえ、1つの事業として統合されました。

これまで、認知症高齢者支援事業については、11 本の取組み、高齢者虐待防止対策事業については 8 本の取組みに順次着手し、現在に至っています。

	取組み	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25
認知症高齢者支援	①認知症家族介護者交流会(専門相談会)		○	○	○	○	○	○	○
	②認知症サポーター養成講座	○	○	○	○	○	○	○	○
	③認知症サポーターステップアップ講座			○					
	④高齢者SOSネットワーク構築に向けた取組み			○	○			○	
	⑤認知症予防啓発パンフレット				○				
	⑥認知症地域資源マップの作成					○	○	○	○
	⑦認知症家族介護者支援講座					○	○	○	○
	⑧認知症啓発講座					○	○	○	○
	⑨介護サービス従事者研修					○	○	○	○
	⑩関係機関連絡会					○	○	○	○
	⑪認知症高齢者支援・高齢者虐待防止推進会議					○	○	○	○
高齢者虐待防止対策	①高齢者虐待防止にかかわる検討・対策会議		○	○	○				
	②高齢者虐待防止勉強会		○						
	③関係者研修		○	○	○				
	④ケアプラン指導研修・専門相談会		○	○					
	⑤啓発講演会		○	○			○		
	⑥虐待防止啓発							○	○
	⑦認知症及び高齢者虐待に関する啓発パンフレットの作成		○						
	⑧日野市高齢者虐待対応・防止マニュアルの作成	○	○	○	○			○	○

※詳細は、資料編「(3) 平成 25 年度までの取組み」を参照

2. 実施体制と事業推進方策

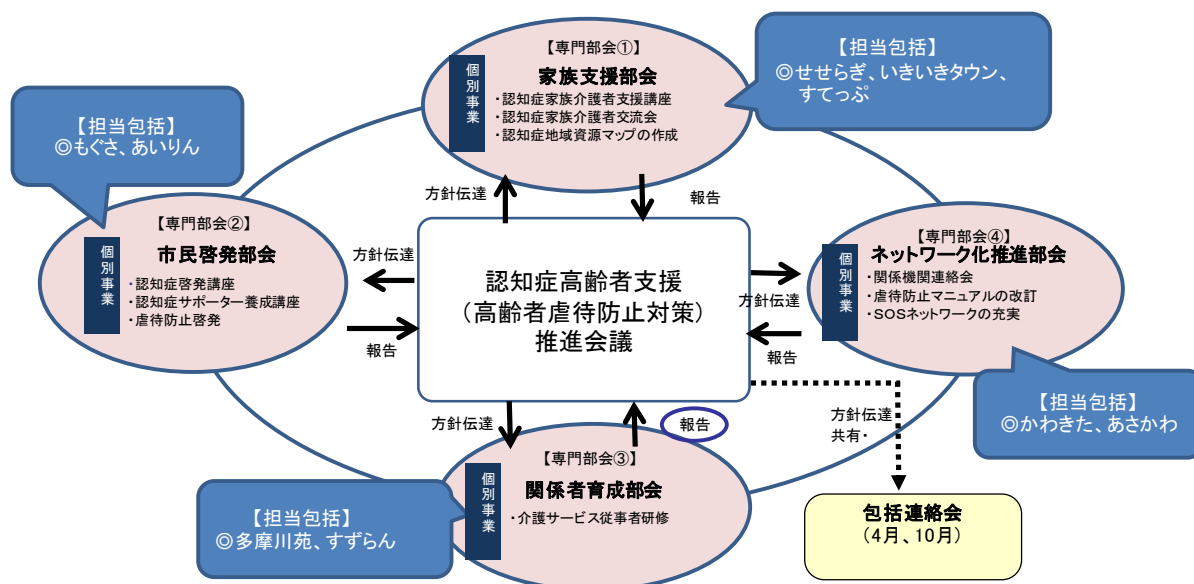
(1) 事業推進体制

一昨年度まで、市内全9箇所の地域包括支援センターが推進会議にて本事業の全ての取り組みについて企画検討を行い、実施する方法で事業を推進してきました。しかし、事業の効率化を図るとともに現場の意見を取組みに活かすため、昨年度より、推進会議では事業全体の運営方針の決定、進捗管理、評価を行い、専門部会にて具体的な取組みを展開していく体制へと転換しました。

部会は、圏域などにも考慮し、経験のある包括が残りながら新しい包括が加わる持ち回り制で進めています。今年度は、「家族支援部会」を「せせらぎ」、「いきいきタウン」、「すてっぷ」、市民啓発部会を「もぐさ」、「あいりん」、「関係者育成部会」を「多摩川苑」、「すずらん」、「ネットワーク化推進部会」を「かわきた」、「あさかわ」で担当しました。

①推進会議：運営方針の決定、進捗管理、評価を行う機能

②専門部会：推進会議で決定された取組み方針・目標を踏まえた各事業の企画、運営、実施



(2) 事業推進方策

本事業は、「認知症サポーター養成講座」や「高齢者虐待対応・防止マニュアルの作成」など個別の取り組みからスタートし、年々取り組みの数を増やしてきた経緯より、各取り組みが個別に展開されてきました。しかし、事業全体としての目的・方向性の確認や進捗管理の必要性が課題として認識されたことから、昨年度より「高齢者福祉総合計画」における本事業の位置付けを確認し、これを踏まえた各取り組みの体系化を行うとともに、「評価視点」の設置により進捗管理を行うこととしました。

さらに今年度は、事業展開から抽出された各取り組みの「課題」についても解決する取り組みを進めました。

1) 事業体系

事業体系は、当事業の位置づけの大元となっている日野市高齢者福祉総合計画の目標および事業の方針のもと、5つの取り組みの柱に束ねられる11の取り組みの実施により、その実現を目指すものとししました。

また、11の取り組みの方向性と指針を共有するため、それぞれについて、取り組みを評価する視点などを決めました（詳細は、P. 13の事業体系図を参照）。

項目	内容	出典
目標	「いつまでも安心して暮らせるまち日野」	日野市高齢者福祉総合計画の目標
方針	「認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりをさらに進めます」	事業仕様書の「目的」より引用
取り組みの柱	1. 認知症高齢者および家族介護者支援体制の整備 2. 一般市民に対する認知症・虐待防止等の理解促進 3. 介護サービス従事者等の資質向上 4. 関係機関のネットワーク構築 5. 事業の推進	
取り組みの意図 (柱に対応)	1. 専門知識の習得、介護負担の軽減 2. 認知症の人を支える人材の育成とネットワーク化 3. 認知症や高齢者虐待等の困難ケース対応のスキルアップ 4. 多様な関係機関同志の効果的な連携の推進 5. 事業計画の検討、進行管理、評価	

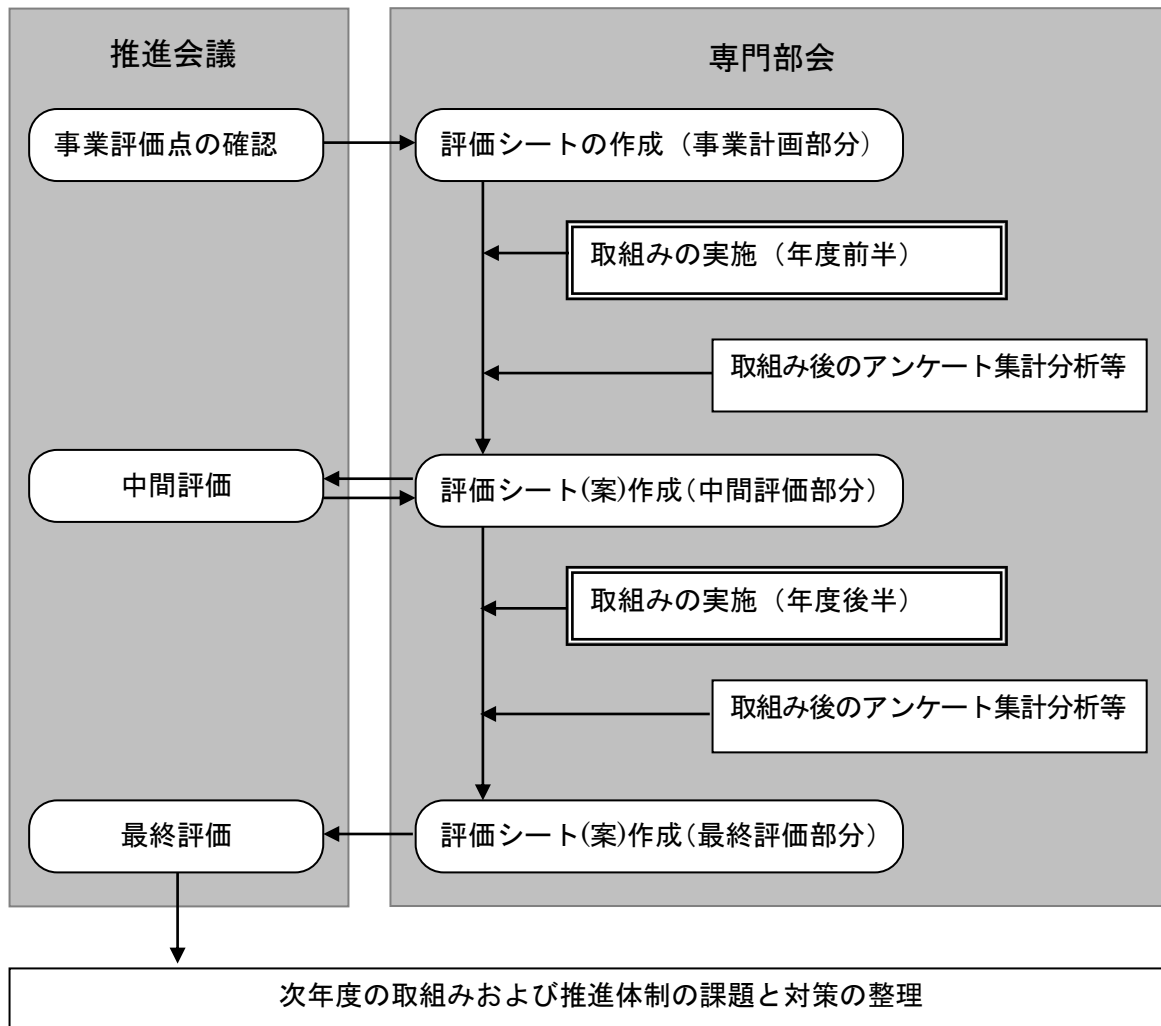


11の取り組みを構成する要素			
取り組み内容	評価視点	対象	取組内容

2) 進捗管理手法

進捗管理については、年度の中間と最後に専門部会にて評価シートを作成しました。それを踏まえて、推進会議で全取組みのの事業評価を行いました。

◆ 取組み評価の流れ



平成25年度 認知症高齢者(高齢者虐待防止対策)事業 事業体系と重点取組み

方針	取組みの柱	取組みの意図	取組み	取組み対象・内容検討のための論点 (＝取組みの評価視点)	対象	取組み内容	平成24年度の取組みから見た課題と重点取組み（網掛け）
認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりをさらに進めます	1. 認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備	専門知識の習得、介護負担の軽減	1) 認知症家族介護者支援講座	●交流会との棲み分け、関連性は明確か ●家族が直面している課題に沿ったテーマ、旬のテーマ 設定など、現場の声が企画に反映されているか	家族介護者	医師や介護経験者等を招聘し、家族介護者が必要としている知識や情報を提供する講座を開催する(年2回)	■テーマ設定理由の明確化(交流会での要望等) ■交流会参加への着実なつなぎ
			2) 認知症家族介護者交流会	●参加を促す周知方法の工夫はあるか ●新たな参加者が入りやすくする運営ができているか ●自主的な活動の促進支援が行われているか	家族介護者	認知症高齢者等の家族介護者が集まり、会話や情報交換を行う交流会を開催する(年4～6回)	■活動の一定の方向性の明確化 ■新規参加者の把握 ■自主運営支援の強化
			3) 認知症地域資源マップの作成	●マップ作成の目的は明確か ●マップの活用方法は検討できているか ●認知症の人やその家族が必要としている地域の支援に	認知症高齢者/ 家族介護者	認知症高齢者やその家族の支えとなる認知症地域資源の発掘・育成を行うとともに、それらをわかりやすく紹介するマップを作成する(検討会:年3回)	■データベースの精査 ■データベースの活用方法の検討 ■データベース作成後の事業計画
	2. 一般市民に対する認知症・虐待防止等の理解促進	認知症の人を支える人材の育成とネットワーク化	1) 認知症啓発講座	●家族介護者専門講座との棲み分けができているか ●一般市民にあった(参加したい)テーマ設定になっているか	一般市民	認知症啓発講座を開催する(年1回)	■テーマ設定根拠の明確化 ■認知症を支える人材のネットワーク化
			2) 認知症サポーター養成講座	●参加を促す周知方法の工夫はあるか ●受講者層の年齢的な広がりは確保されているか ●次の活動につながる検討はできているか	一般市民	サポーター養成講座の開催 講座修了者の次の活動につなげる方策の検討	■組織への講座開催の働きかけ ■ステップアップ講座の検討と講師の質の向上
			3) 虐待防止啓発	●周知方法など、参加を促す工夫はあるか ●規模、構成、内容は適切か ●地域の虐待の実状をふまえ、地域に必要とされる情報提供や発信になっているか	一般市民	虐待防止啓発にかかわる取組みを行う。	■地域特性の把握と地域が必要とする情報の提供 ■他部会活との連携
	3. 介護サービス従事者等の資質向上	認知症や高齢者虐待等の困難ケース対応のスキルアップ	1) 介護サービス従事者研修	●困難事例対応のスキルアップにつながるための介護現場に必要なテーマ設定、開催時間の工夫が行われているか	介護サービス従事者	介護現場のスタッフが参加するための課題をクリアするよう、テーマ設定や実施時間帯を工夫した研修の実施	■多業種間ワークなど、テーマ・目的に応じた効果的な手法の導入 ■夜間開催など、テーマに応じた対象者に適切な開催時間の設定 ■研修効果・評価の仕組みの具体化
	4. 関係機関のネットワーク構築	多様な関係機関同志の効果的な連携の推進	1) 関係機関連絡会	●事例に際して、関係機関相互にどのような動きや連携が可能か、効果的かを共有できる会議になっているか ●連絡会参加者の構成は適切か	関係機関	困難事例を通じ、課題解決のため関係機関が「何ができるか」を検討し、連携の在り方を検討する(年2回)	■医療関係者等、テーマに応じた参加メンバーの検討
			2) 虐待防止マニュアルの改定	●長期的に関わるケースに対応しているか ●運用に合わせたマニュアルとなっているか ●虐待防止の目的と課題をふまえ、関係機関や市民の動きが分かる改定になっているか	関係機関	既存虐待防止マニュアルを改訂する(検討会:年5回程度)	■マニュアル改訂の実施
			3) SOSネットワークの充実	●SOSネットワーク事業の啓発 ●啓発結果の検証	関係機関	SOSネットワークシステムの更なる啓発および啓発結果の検証を行う	■広報活動の充実・登録者数の増加 ■広報効果の検証方法の検討
	5. 事業の推進	事業計画の検討、進行管理、評価	1) 認知症高齢者支援(高齢者虐待防止対策)事業推進会議	●関係者全員で、本事業の目的、本事業における各プロジェクトの役割とねらい、課題が共有できる運営になっているか	事業	効果的な会議運営および評価手法の精査を行う	■効果的な推進会議の運営 ■効果的な部会運営 ■評価手法の精査 ■全包括職員への事業内容の伝達

(3) 推進会議の開催

今年度は、推進会議を3回開催しました。目的の達成状況を共有するため、評価シートを用いた報告・共有を行うとともに、情報交換が活発になされるよう、ワークショップ形式を取り入れました。

	開催日時等	主な議題
第1回	平成 25 年 4 月 24 日 (水) 9:30~11:30 501 会議室	1. 平成 25 年度事業について 2. 重点取組の具体的手法の検討 (※ワークショップ)
第2回	平成 25 年 10 月 23 日 (水) 9:30~11:30 501 会議室	1. 事業中間評価 2. 年度後半に向けた協議 1) 認知症家族介護者交流会のあり方 2) 認知症を支える人材のネットワーク化 (※ワークショップ)
第3回	平成 26 年 3 月 19 日 (水) 9:30~12:00 502 会議室	1. 事業最終評価 2. 次年度にむけた協議 1) 事業運営体制 2) 事業構成 (※ワークショップ)

■ワークショップの様子



(4) 専門部会の開催

昨年度に引き続き、事業の「取組みの柱」ごとに4つの専門部会を設置し、各部会にて、各取組みの「対象」と「意図」(＝目的)に沿った実施方針の決定および取組みの企画運営を行いました。

1) 専門部会の取組み

専門部会の開催実績は、家族支援部会7回、市民啓発部会6回、関係者育成部会8回、ネットワーク化推進部会15回となっています。

専門部会の方式をとったことにより、意思決定が図りやすくなるなど効率的な企画運営ができるようになりました。また、議事録フォーマットの精査により、検討経緯や結論を見やすくすることで、部会間の情報共有も向上しました。

2) 専門部会の開催詳細

① 家族支援部会

担当地域包括支援センター	せせらぎ◎、いきいきタウン、すてっぴ ※◎：部会長
取組みの柱	認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備
取組み	①認知症家族介護者支援講座 ②認知症家族介護者交流会 ③認知症地域資源マップの作成

【開催実績：計7回】

	開催日時等	主な議題
第1回	平成25年5月9日(木) 14:00～17:00 201会議室	1. 第1回家族介護者支援講座について 2. マップ作成及び交流会について
第2回	平成25年5月14日(火) 13:30～16:30 102会議室	1. 第1回家族介護者支援講座について 2. マップ作成及び交流会について
第3回	平成25年6月12日(水) 14:00～16:30 201会議室	1. 第1回家族介護者支援講座について 2. マップ作成の進捗確認 3. 中間評価
第4回	平成25年8月2日(金) 14:00～16:30 301会議室	1. 第1回家族介護者支援講座の振り返り 2. 第2回家族介護者支援講座の検討 3. マップ検討の進捗確認 4. 家族交流会の方向性の決定
第5回	平成25年12月9日(月) 14:00～16:30 201会議室	1. 第2回家族介護者支援講座の詳細検討・決定

	開催日時等	主な議題
第6回	平成 26 年 2 月 4 日（火） 14：00～16：30 501 会議室	1. 第2回家族介護者支援講座の当日の流れの確認・決定
第7回	平成 26 年 3 月 3 日（月） 14：00～16：30 オンブズパーソン室	1. 最終評価 2. 次年度の方向性について 3. マップ作成作業について

② 市民啓発部会

担当地域包括支援センター	もぐさ◎、あいりん	※◎：部会長
取組みの柱	一般市民に対する認知症・虐待防止等の理解促進	
取組み	①認知症市民啓発講座 ②認知症サポーター養成講座 ③虐待防止啓発	

【開催実績：計 6 回】

	開催日時等	主な議題
第1回	平成 25 年 5 月 17 日（金） 9：30～12：00 オンブズパーソン室	1. 第1回市民啓発講座について 2. 認知症サポーター養成講座の実施策の検討 3. 虐待防止の啓発活動の検討
第2回	平成 25 年 6 月 19 日（水） 14：00～16：00 オンブズパーソン室	1. 第1回市民啓発講座内容の決定 2. 認知症サポーター養成講座の実施策の検討 3. 虐待防止の啓発活動の検討
第3回	平成 25 年 7 月 17 日（水） 14：00～15：30 オンブズパーソン室	1. 第1回市民啓発講座内容の決定 2. 認知症サポーター養成講座の具体的な実施策の検討 3. 虐待防止啓発の自治会回覧用ちらしの検討
第4回	平成 25 年 8 月 15 日（木） 14：00～16：00 オンブズパーソン室	1. 第1回市民啓発講座内容の決定 2. 認知症サポーター養成講座の具体的な実施策の検討 3. 虐待防止啓発の自治会回覧用ちらしの検討
第5回	平成 25 年 9 月 18 日（水） 14：00～16：00 オンブズパーソン室	1. 第1回市民啓発講座内容の決定 2. 認知症サポーター養成講座の具体的な実施策の検討
第6回	平成 26 年 2 月 26 日（水） 16：00～17：00 オンブズパーソン室	1. 最終評価 2. 日野市共通認知症サポーター養成講座パワーポイント案の検討

③ 関係者育成部会

担当地域包括支援センター	多摩川苑◎、すすらん	※◎：部会長
取組みの柱	介護サービス従事者等の資質向上	
取組み	①介護サービス従事者研修	

【開催実績：計 8 回】

	開催日時等	主な議題
第 1 回	平成 25 年 5 月 8 日（水） 14：00～16：15 オープンスペース①	1. 第 1 回サービス従事者研修内容の検討 2. 第 2 回サービス従事者研修の検討
第 2 回	平成 25 年 5 月 28 日（火） 14：00～16：15 オープンスペース①②	1. 第 1 回サービス従事者研修内容の検討 2. 第 2 回サービス従事者研修の検討
第 3 回	平成 25 年 6 月 18 日（火） 10：00～12：00 オープンスペース	1. 第 1 回サービス従事者研修内容の決定
第 4 回	平成 25 年 7 月 11 日（木） 14：00～16：00 オープンスペース	1. 第 1 回サービス従事者研当日の流れ 2. 第 2 回サービス従事者研修の検討
第 5 回	平成 25 年 8 月 14 日（水） 14：00～16：00 101 会議室	1. 第 1 回介護サービス従事者研修の反省 2. 第 2 回介護サービス従事者研修の開催詳細の決定
第 6 回	平成 25 年 11 月 20 日（水） 14：30～16：30 502 会議室	1. 第 2 回介護サービス従事者研修の開催詳細の決定
第 7 回	平成 26 年 2 月 13 日（木） 14：00～16：00 4 階会議室	1. 第 2 回介護サービス従事者研修の開催詳細を決定する 2. 次年度に向けての意見出し
第 8 回	平成 26 年 2 月 28 日（金） 14：00～16：00 オンブズパーソン室	1. 最終評価 2. 次年度に向けた検討

④ ネットワーク化推進部会

担当地域包括支援センター	かわきた◎、あさかわ	※◎：部会長
取組みの柱	関係機関のネットワーク構築	
取組み	①関係機関連絡会 ②虐待防止マニュアルの改訂 ③SOSネットワーク事業の充実	

【開催実績：計 15 回】

	開催日時等	主な議題
第 1 回	平成 25 年 5 月 8 日（水） 10：00～12：00 オンブズパーソン室	1. 第 1 回関係機関連絡会の概要の決定 2. 関係機関連絡会の検討 3. 虐待マニュアル・SOS ネットワークの方向性の決定
第 2 回	平成 25 年 5 月 31 日（金） 10：00～12：00 オンブズパーソン室	1. 第 1 回関係機関連絡会の詳細決定 2. SOS ネットワークの具体的な取組みの決定 3. 虐待マニュアル改定の評価シートの作成
第 3 回	平成 25 年 7 月 11 日（金） 10：00～12：00 オンブズパーソン室	1. SOS ネットワーク PR の具体策の決定 2. 虐待マニュアル改定手順の決定
第 4 回	平成 25 年 8 月 13 日（火） 14：00～16：00 オンブズパーソン室	1. 虐待防止マニュアルの問題点の周知 2. 今後の流れの決定
第 5 回	平成 25 年 9 月 27 日（金） 10：00～12：00 オンブズパーソン室	1. 虐待防止マニュアルの問題点の周知 2. 今後の流れの決定
第 6 回	平成 25 年 10 月 25 日（金） 10：00～12：00 オープンスペース	1. 改訂の方向性の決定
第 7 回	平成 25 年 11 月 14 日（木） 14：00～16：00 オープンスペース①②	1. 帳票改定案の作成
第 8 回	平成 25 年 12 月 2 日（月） 15：00～17：00 オンブズパーソン室	1. 帳票改定案の作成
第 9 回	平成 25 年 12 月 5 日（木） 10：00～12：00 オンブズパーソン室	1. 第 2 回関係機関連絡会事例選定 2. 第 2 回関係機関連絡会開催詳細の決定
第 10 回	平成 25 年 12 月 24 日（火） 9：30～12：00 オンブズパーソン室	1. 第 2 回関係機関連絡会事前質問の決定 2. 虐待マニュアルの帳票・対応の流れの決定
第 11 回	平成 26 年 1 月 22 日（水） 10：00～12：00 オンブズパーソン室	1. 帳票記入例の検討 2. 市町村権限の説明の検討 3. Q&A の検討 4. 対応の解説の検討

	開催日時等	主な議題
第 12 回	平成 26 年 2 月 6 日 (木) 14 : 00 ~ 17 : 00 オンブズパーソン室	1. 虐待マニュアルにおける対応段階における解説の決定
第 13 回	平成 26 年 2 月 20 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 00 オンブズパーソン室	1. 虐待マニュアルにおける対応段階における解説の決定
第 14 回	平成 26 年 2 月 26 日 (水) 9 : 00 ~ 12 : 00 オンブズパーソン室	1. 最終評価 2. 虐待マニュアルにおける対応段階における解説の決定
第 15 回	平成 26 年 3 月 25 日 (火) 9 : 30 ~ 12 : 00 オープンスペース	1. 虐待マニュアルにおける対応段階における解説の決定

3. 専門部会による事業の推進

(1) 認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備

1) 認知症家族介護者支援講座

平成 25 年度は、認知症家族介護者支援講座の取組・評価の視点を、①交流会との棲み分け・関連性の明確化、②家族ニーズや介護分野における動向・潮流を踏まえた講座の検討と設定し、課題を①テーマ設定理由の明確化、②交流会への着実なつなぎとして進めました。その結果、第 1 回では介護負担の軽減を目的とした認知症高齢者の周辺症状の緩和するタクティールケアの体験講座、第 2 回では市内全体の家族介護者交流会の開催を実施しました。講座はいずれも好評でしたが、講座の効果検証や支援講座から交流会への着実なつなぎについては次年度の課題となりました。

【事業体系における位置付けと取組みの評価視点】

事業方針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりを更に進めます	
取組みの柱	1. 認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備	
取組み	2) 認知症家族介護者交流会	
取組みの対象と意図 (目的)	対象	認知症家族介護者
	意図(目的)	専門知識の習得、介護負担の軽減
取組み・評価視点	視 点①交流会との棲み分け、関連性は明確か	
	視 点②家族が直面している課題に沿ったテーマ、旬のテーマ設定など、現場の声が企画に反映されているか(→課題①につながる)	
取組み内容 (予定)	視 点①介護技術や心構えの習得など、交流会では実現が難しい専門的な内容の講座とする。	
	視 点②アンケートや聞き取りなどで家族の要望の高いテーマを把握・反映するとともに、他市の動向も踏まえて検討する。	
課題	課 題①テーマ設定理由の明確化	
	解決策①過去の開催内容とのバランス、認知症家族介護者の要望、介護分野における動向・潮流などを踏まえて検討する。	
	課 題②交流会参加への着実なつなぎ	
	解決策②家族交流会を PR する時間を講座内で一定時間設ける。(単なる案内ではなく、圏域毎に包括職員が家族交流会についてアピールする。また圏域毎の家族会のパンフレット等も会場に設置・配布する。)	

①第1回認知症家族介護者支援講座

平成25年度「第1回認知症家族介護者支援講座」として、認知症緩和ケア手法による介護負担の軽減を目的としてスウェーデン生まれの「タクティールケア」の紹介を行いました。講座は、株式会社日本スウェーデン福祉研究所の原インストラクターをお招きし、「認知症緩和ケア理念とタクティールケア」についての講義、「ためしてガッテン」の映像によるタクティールケア効果の説明、デモンストレーション、そして参加者同士による体験という流れで開催しました。

「タクティールケア」は、認知症やがんの緩和ケア、未熟児ケアなど、さまざまな分野におけるケアの補完的手法として用いられています。手足や背中など相手の身体を柔らかく包み込むように触れることで、相手の不安な感情を取り除き、穏やかさと安心感をもたらし、認知症の周辺症状（徘徊、昼夜逆転、妄想など）を緩和するというケアで、スウェーデンはもとより、近年では日本でも導入している施設もみられます。

講座当日は、日野市生活・保健センターに意識の高い58名の参加者で一杯となりました。参加者の約8割が女性と多い一方、積極的に参加される男性の姿も見られました。

また、参加者の約3割が60歳代で最も多く、次いで、50歳代・40歳代、70歳以上がそれぞれ約2割と、さまざまな年代の参加がありました。

講座については、参加者の約9割が「良かった」と回答するなど大変高い満足度であるとともに、「今後、タクティールケアを認知症等の家族にやってみたい」と思う方も約8割と高く、参加者が実践を意識していることが伺われました。

講座最後には、各圏域の「家族交流会」のご案内・PRを行った結果、「今後、家族交流会に参加してみたい」と回答した割合が約5割と高く、受付でちらしを取られる方も多いなど、関心の高さが伺えました。

■取組みの実施状況（視点と課題への対応状況）

視 点①	交流会との棲み分け、関連性は明確か	交流会との棲み分けというよりも市民啓発講座との棲み分けを意図。
視 点②	体験・参加型の講座内容とした。家族が直面している課題に沿ったテーマ、旬のテーマ設定など、現場の声が企画に反映されているか（→課題①につながる）	同講座は他市でも開催され、大変好評を得ているとの情報を基に日野市においても同様に開催した。
課 題①	テーマ設定理由明確化	過去の講座は座学中心で実施。講座対象者を認知症家族に焦点化させるためにも体験型講座とした。
課 題②	交流会参加への着実なつなぎ	→講座の終了10分前に家族介護者交流会をPRする時間を設けた。

■開催概要

講座名	スウェーデン生まれのタクティールケア ～「触れて」不安や痛みを和らげる認知症緩和ケア～
開催日時	平成24年7月24（水）13:30～15:30（開場：13:00）
開催場所	日野市 生活・保健センター 1階予防接種室
実施主体	日野市高齢福祉課
司会	飯沼 一将氏（地域包括支援センターせせらぎ）
定員（参加者数）	70名（58名）
プログラム （計120分）	1. 開会 挨拶（5分） 2. 講義 講師： （株）日本スウェーデン福祉研究所 原インストラクター ①認知症緩和ケア理念とタクティールケア ②「タクティールケア」の効果 ③デモンストレーション ④「タクティールケア」の体験 3. 質疑応答（10分） 4. 家族交流会PR（5分） 5. 閉会 挨拶（5分）

■講座の様子



左上：インストラクターによる講義

左下：デモンストレーション

右上：熱心に聞き入る参加者

右下：タクティールケアの体験

②第2回認知症家族介護者支援講座

「第2回認知症家族介護者支援講座」では、家族介護者を対象にしたバスツアーを企画しました。プログラムは、介護に役立てていただく情報提供および交流の機会の提供を目的とし、平成24年度より認知症疾患医療センターに指定された平川病院の相談員による認知症疾患医療センターの役割等を中心とした講義、及び七ツ塚ファーマーズセンターでの家族介護者の交流の二本立てとしました。

当初、講義は平川病院にて行う予定でしたが、大雪の影響で、相談員の方に七ツ塚ファーマーズセンターに来ていただいて実施しました。その後、日野市地場食材を使った昼食を取りながら、参加者同士で普段の介護の悩みなどについて自由におしゃべりしていただく交流会を行いました。

参加者の約8割が「まあ良かった」と回答しており、特に家族同士の交流への満足度が高い結果となりました。一方、講座の効果検証は課題として残りました。

■取組みの実施状況（視点と課題への対応状況）

視 点①	交流会との棲み分け、関連性は明確か	認知症疾患医療センター（平川病院）のバス見学を企画（体験・参加型講座第2弾として位置付け）
視 点②	家族が直面している課題に沿ったテーマ、旬のテーマ設定など、現場の声が企画に反映されているか（→課題①につながる）	家族介護者交流会における要望の聴取や他市における家族介護者バスハイク等を参考に検討
課 題①	テーマ設定理由の明確化	日野市では初の試みとして、認知症家族介護者バスツアーを実施
課 題②	交流会参加への着実なつなぎ	非該当

■開催概要

講座名	認知症家族介護者交流バスツアー
開催日時	平成26年2月22（土）10：00～15：30
開催場所	七ツ塚ファーマーズセンター
実施主体	日野市高齢福祉課
司会	落合恵子氏（地域包括支援センターすてっぷ）
定員（参加者数）	21名（12名）
プログラム	10：00 日野市役所 正面玄関集合 1）認知症疾患医療センター 平川病院相談員 ・認知症疾患医療センターの役割 2）家族介護者同士の交流 15：30 解散（日野駅、高幡不動駅、日野市役所にて順次解散）

■講座の様子



左上：車中での説明
左下：平川病院相談
員による説明
右上・下：参加者同
士の交流

認知症家族介護者支援講座 アンケート結果

【アンケート回収状況】

①第1回：スウェーデン生まれのタクティールケア

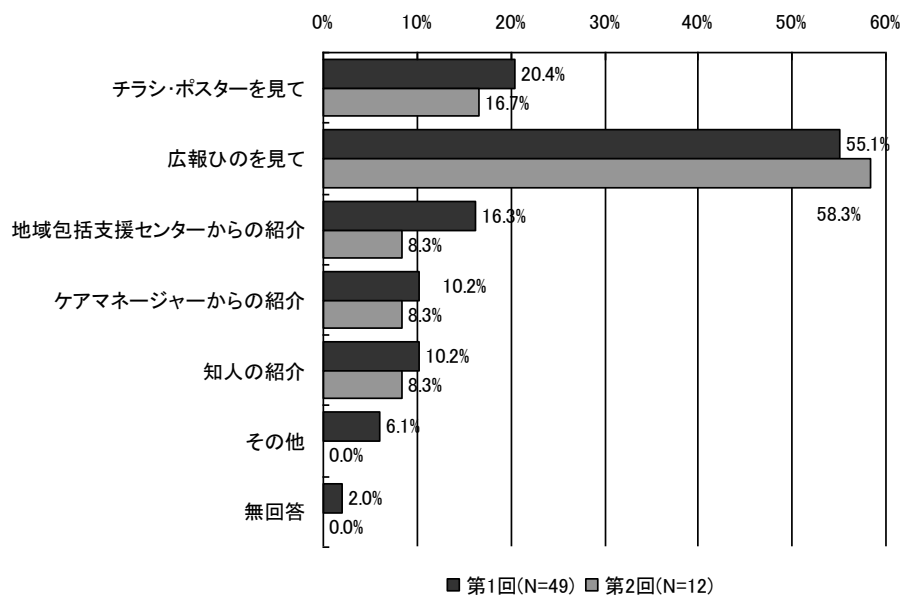
～「触れて」不安や痛みを和らげる認知症緩和ケア～

参加者数：58名 回収数：49枚 回収率：84.5%

②第2回：認知症家族介護者交流会バスツアー

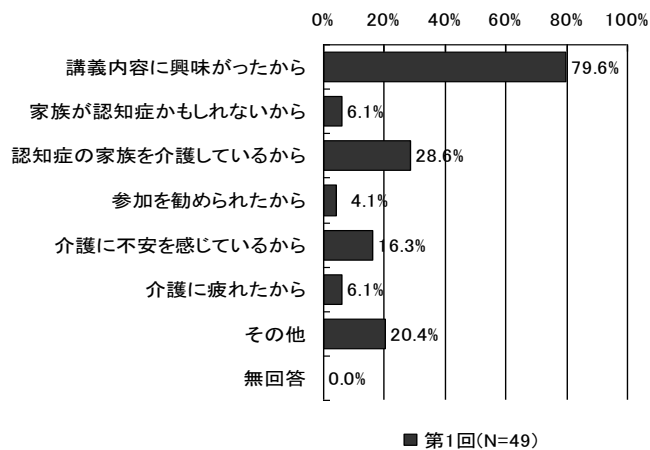
参加者数：12名 回収数：12枚 回収率：100%

1. 講座を知った経緯

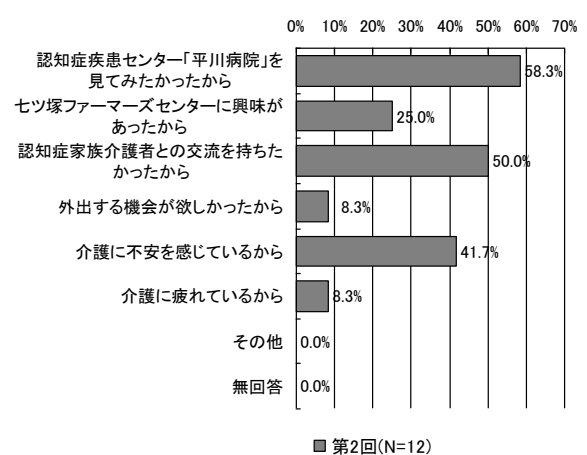


2. 参加動機

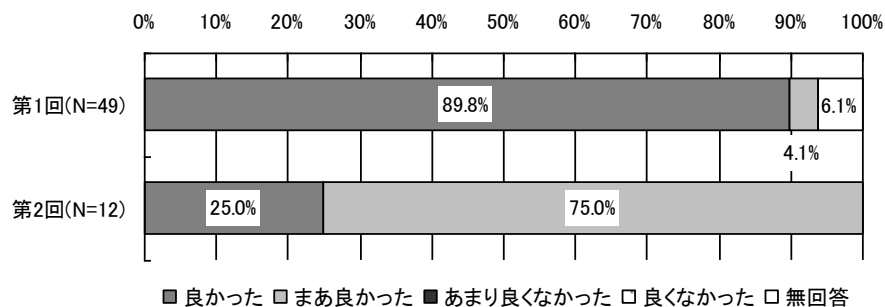
【第1回講座】



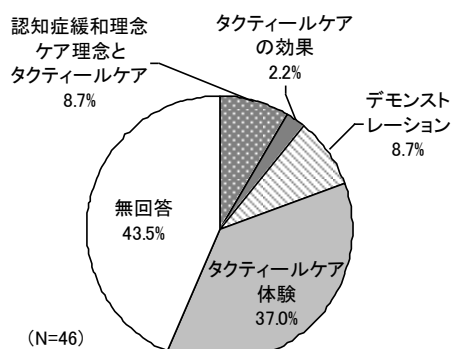
【第2回講座】



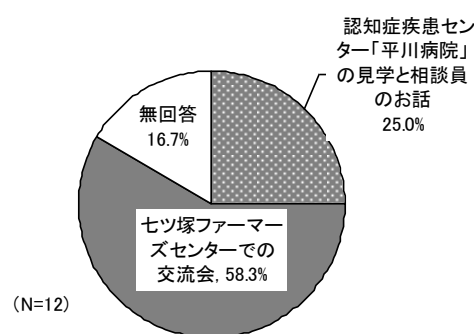
3. 感想



第1回：良かった内容

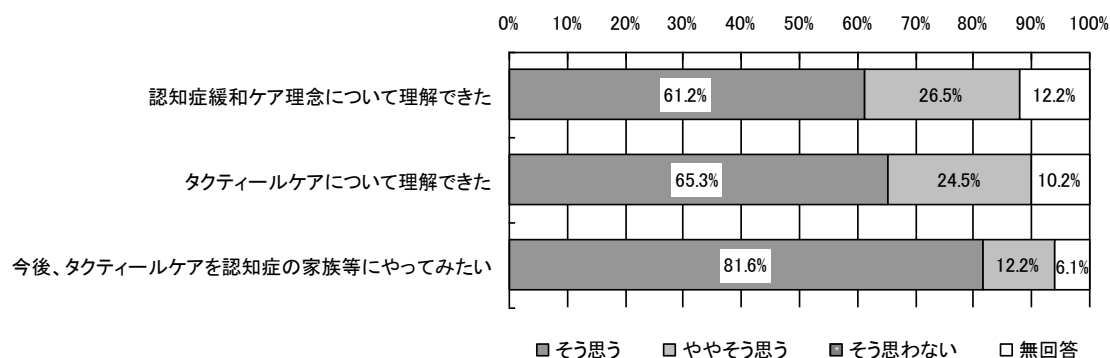


第2回：良かった内容

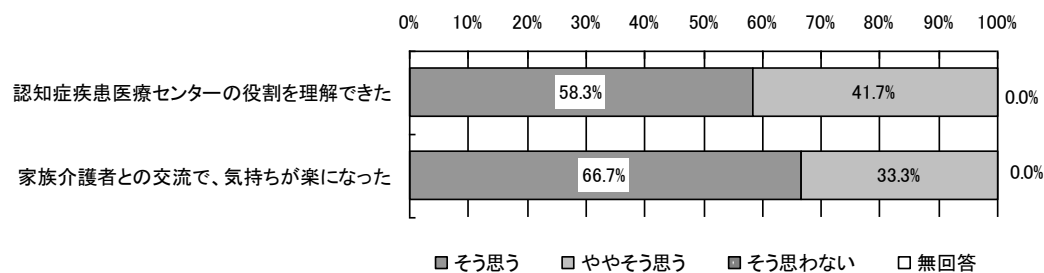


4. 講座で感じたこと

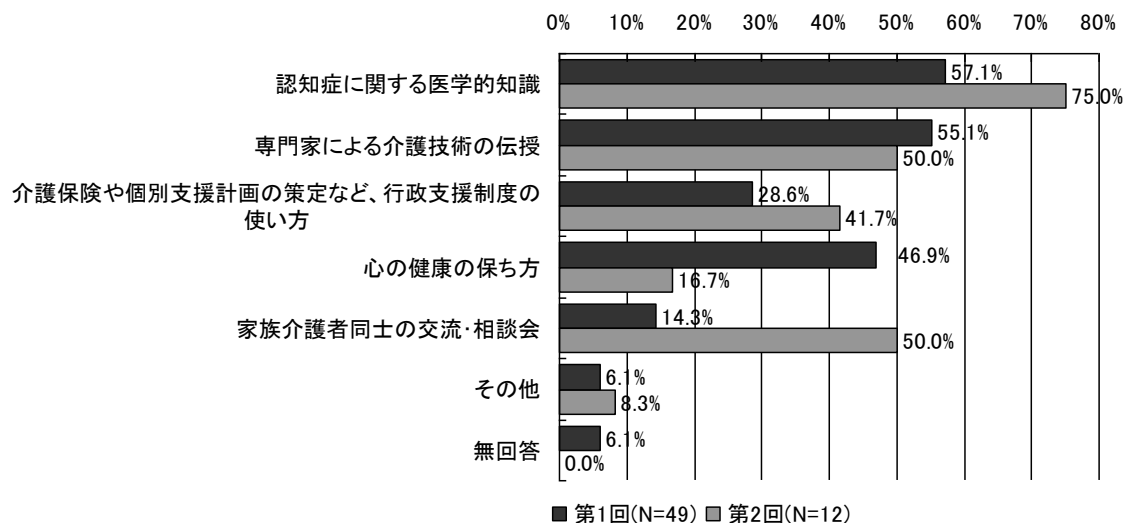
①第1回：スウェーデン生まれのタクティールケア (N=49)



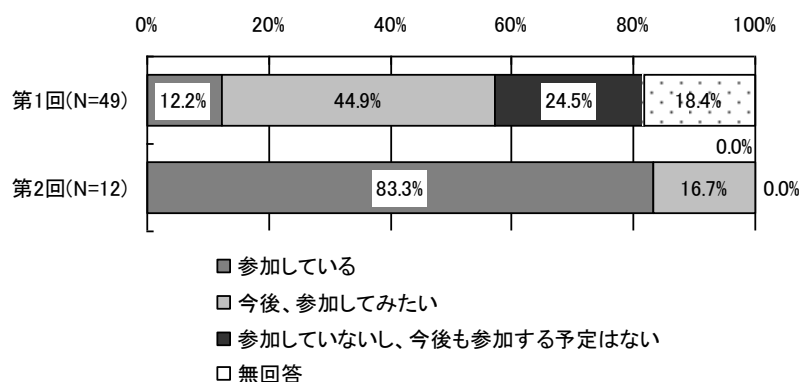
②第2回：認知症家族交流バスツアー (N=12)



5. 今後どのような内容の講座を希望するか

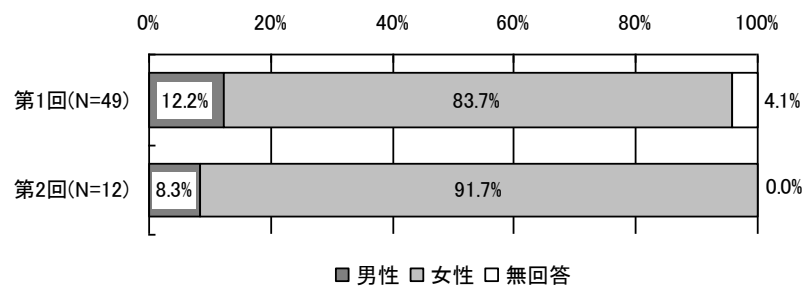


6. 家族交流会への参加状況

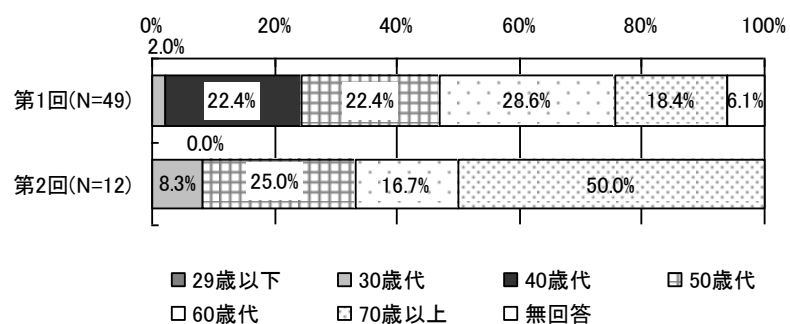


7. 属性

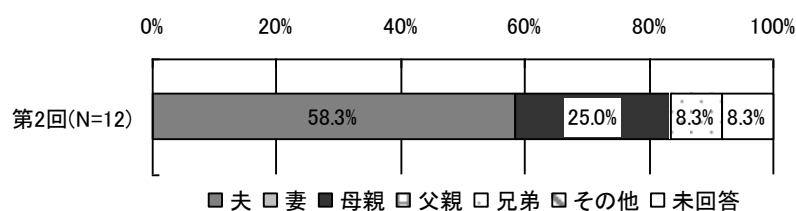
①性別



②年代



③誰を介護しているか



2) 認知症家族介護者交流会

平成19年度より、介護者の精神的なケアの充実を目的に、日野市内の4つの生活圏域ごとに、認知症高齢者等の家族介護者が集まり、会話や情報交換を行う交流会を実施しています。今年度は、①新たな参加者を促す周知方法の工夫、②新たな参加者を入りやすくする運営ができているか、の2つの視点に留意しながら、①活動の一定の方向性の明確化、②全市的な家族同士の交流や休息の機会の提供、を課題として運営を行いました。当初「交流会の自主化支援」が取り組みの視点としてありましたが、中間評価にて、交流会は地域包括支援センターが開催しているからこそ参加しやすく、また支援センターにとっても地域情報の収集となるため、「自主化」は積極的には進めないとして視点から外しました。

今年度は、家族介護者支援講座のなかで、市内全体の交流会を行いました。また、部会メンバーによる圏域ごとの交流会見学を行い、一定の方向性の明確化に向けて検討を行いました。次年度は、新たな参加者を増やす更なる工夫、家族会の周知方法、圏域ごとの横の連携・情報の共有のあり方が課題となっています。

【事業体系における位置付けと取り組みの評価視点】

事業方針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりを更に進めます	
取り組みの柱	1. 認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備	
取り組み	2) 認知症家族介護者交流会	
取り組みの対象と意図 (目的)	対象	認知症家族介護者
	意図(目的)	専門知識の習得、介護負担の軽減
取り組み・評価視点	視 点①	新たな参加者を促す周知方法の工夫はあるか
	視 点②	新たな参加者を入りやすくする運営ができているか
課題	課題①活動の一定の方向性の明確化 解決策①他圏域で行われている活動内容の把握を部会担当者にて行う。	
取組内容 (予定)	視 点①	各事業の講座等の機会を捉えて広報すると共に第一線で対応しているCM等々にもあらためて広く周知していく。
	視 点②	全市的な家族同士の交流や休息の機会を提供するなど、これまでにない新規手法の検討
取り組みの実施状況	視 点①	各事業において家族会を広報するなど、その周知に努めているがCM等へはさらなる周知が必要。
	視 点②	市内全体の家族交流の機会として、日野市初の試みであるバスツアーを実施。(新たな家族会への参加者獲得には課題あり)
	課題①	部会担当者による圏域毎の家族会の見学は、その特色を再確認できる機会になり、家族会の一定の方向性の確認ができた。

■交流会の様子



たかはた圏域の家族介護者交流会

【認知症家族介護者交流会 実施記録】

【 たかはた圏域 】(4回)

	開催日	時 間	場 所	参加人数	参加人数(内訳)	内 容
1	6月12日 (水)	10:00～ 11:30	ニチイホーム 高幡不動	25名	家族：13名 民生委員：7名 オブザーバー： 5名	参加者間の 交流
2	9月25日 (水)	10:00～ 11:30	七生福祉セ ンター	20名	家族：13名 民生委員：2名 オブザーバー： 6名	参加者間の 交流
3	12月4日 (水)	10:00～ 11:30	ニチイホーム 高幡不動	15名	家族：11名 民生委員：2名 オブザーバー： 2名	参加者間の 交流
4	3月12日 (水)	10:00～ 11:30	福祉支援セ ンター	22名	家族：11名 民生委員：4名 オブザーバー： 7名	参加者間の 交流

【 とよだ圏域 】(6回)

	開催日	時 間	場 所	参加人数	参加人数(内訳)	内 容
1	4月11日 (木)	14:15～ 16:15	愛隣舎 ホール	17名	家族：9名 オブザーバー： 8名	近況報告、 現在抱えてい る問題等
2	6月13日 (木)	14:15～ 16:00	愛隣舎 ホール	16名	家族：7名 オブザーバー： 8名 実習生1名	近況報告、 現在抱えてい る問題等

	開催日	時 間	場 所	参加人数	参加人数(内訳)	内 容
3	8月8日(木)	14:15～ 16:00	愛隣舎 ホール	13名	家族：8名 オブザーバー： 5名	近況報告、 現在抱えてい る問題等
4	10月10日 (木)	14:15～ 16:15	愛隣舎 ホール	16名	家族：7名 オブザーバー： 9名 実習生1名	近況報告、 現在抱えてい る問題等
5	12月12日 (木)	14:15～ 16:15	愛隣舎 ホール	9名	家族：5名 オブザーバー： 4名	近況報告、 現在抱えてい る問題等
6	2月13日 (木)	14:15～ 16:00	愛隣舎 ホール	10名	家族：3名 オブザーバー： 6名 実習生1名	近況報告、 現在抱えてい る問題等

【 ひの圏域 】(6回)

	開催日	時 間	場 所	参加人数	参加人数(内訳)	内 容
1	4月18日 (木)	10:00～ 12:00	サルビア 会議室	5名	家族：5名	茶話会 意見交換
2	6月20日 (木)	10:00～ 12:00	サルビア 会議室	7名	家族：7名	茶話会 意見交換
3	8月22日 (木)	10:00～ 12:00	サルビア 会議室	8名	家族：8名	茶話会 意見交換
4	10月17日 (木)	10:00～ 12:00	サルビア 会議室	8名	家族：8名	茶話会 意見交換
5	12月19日 (木)	10:00～ 12:00	サルビア 会議室	9名	家族：8名 業者：1名 「愛の手」	茶話会 意見交換
6	2月20日 (木)	10:00～ 11:30	サルビア 会議室	3名	家族：3名	茶話会 意見交換

【 ひらやま圏域 】(4回)

	開催日	時 間	場 所	参加人数	参加人数(内訳)	内 容
1	4月17日 (水)	10:00～ 11:30	南平駅西 交流センター	8名	家族：8名 オブザーバー： 0名	参加者間の 交流
2	7月17日 (水)	10:00～ 11:30	南平駅西 交流センター	8名	家族：8名 オブザーバー： 0名	参加者間の 交流

	開催日	時 間	場 所	参加人数	参加人数(内訳)	内 容
3	11月20日 (水)	10:00～ 11:30	南平駅西交流 センター	9名	家族：6名 オブザーバー： 3名	参加者間の 交流
4	2月19日 (水)	10:00～ 11:30	南平駅西交流 センター	10名	家族：10名 オブザーバー： 0名	参加者間の 交流

3) 認知症地域資源マップの作成

日野市における認知症地域資源情報を効果的に市民に提供することを目的として、平成 22 年度より認知症地域資源マップ作成の検討を進めています。検討の結果、平成 23 年度には、地域包括支援センターおよび市の認知症高齢者支援事業を紹介する「認知症サポートガイド」としてまとめました。平成 24 年度には、更に一歩進み、地域包括支援センターや高齢福祉課が市内のより詳細な地域資源情報の把握・提供ができるようになることを目指し、東京都の「認知症の人と家族を支える地域づくりの手引書」を参考にしながら、具体的な「地域資源」の情報収集を開始しました。

当初は、広く高齢者全般の支援に関わる「地域資源」を収集し、包括より全 326 件リストアップされましたが、類似の情報をまとめた冊子や地図があることから、「認知症」に特化した内容で整理すべきとの方向が確認され、認知症に特化した内容で精査・ルール化を行ったところ、141 件に集約されました。

とりまとめたデータベースは、地域資源ごとに印刷したもの（P.37 参照）ファシリティングし、各包括で認知症相談において活用していくこととなりました。次年度は、更新ルールの検討、活用状況を踏まえた今後の展開の検討が課題となっています。

【事業体系における位置付けと取組みの評価視点】

事業方針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりを更に進めます	
取組みの柱	1. 認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備	
取組み	3) 認知症地域資源マップ（データベース）の作成	
取組みの対象と意図（目的）	対象	認知症家族介護者
	意図（目的）	専門知識の習得、介護負担の軽減
取組み・評価視点	視 点①データベース作成の目的は明確か 視 点②データベースの活用方策は検討できているか 視 点③認知症の人やその家族が必要としている地域の支援に応えるデータベースづくりになっているか	
取組み内容（予定）	視 点①地域包括支援センター及び高齢福祉課において、認知症に関する市民相談対応に資するデータベースの作成を目的とする。 視 点②データベースの情報は紙ベースで出力し、ファイル形式としたものを窓口で活用する。電子データは各センターにて自由に閲覧可とする。 視 点③認知症に特化した地域資源データベースを作成する。	
課題	課 題①データベースの充実 解決策①各包括にて、収集済みのデータの「認知症支援」項目の	

	精査・追記を行う。 課 題②データベース作成後の展開検討 解決策②データベース完成後、新年度前に検討する。
取組の実施状況	視 点①H26.3 上旬に各データを精査し、情報ツールとして同月末までに完成。 視 点②H26.3 末までに紙ベース（ファイル型式）として完成予定。 視 点③H26.3 上旬に全データの中から部会にて認知症に特化した情報を精査、抽出。 課 題①集約された情報をいったん各包括に戻し、あらためて精査。それを完成させるべく作業継続。 課 題②未検討（次年度へ持ち越し）

【マップ検討会議実施概要】

	開催日時等	議題
第1回	平成25年9月3日(火) 10:00～12:00 503 会議室	1. マップ検討部会の進め方（スケジュールと方針）について 2. データベース作成ルールの確認 3. データベース更新版の確認 4. アウトプットのイメージ
第2回	平成26年2月4日(火) 14:30～16:30 501 会議室	1. マップ検討部会の進め方（スケジュールと方針）について 2. データベースの確認依頼作業について 3. その他

■日野市認知症高齢者 地域資源情報 データベース紙面

= 認知症地域資源に特化するために設定した項目

名称 	
種別 	認知症高齢者支援に役立つところ
住 所 	
地区名 	電 話
協力事業者	サ養成講座受講
診療科目 	
営業(診察)日・時間 	
休業・休診日 	
往診・在宅・訪問 	
備 考 	
事例・マル秘情報等	

コピー厳禁

(2) 一般市民に対する認知症や虐待防止等の理解促進

1) 認知症啓発講座

平成 25 年度は、認知症啓発講座の取組み・評価視点を①家族介護者支援講座との棲み分け、②一般市民にあった（参加したい）テーマ設定、課題を①テーマ設定根拠の明確化、②認知症を支える人材のネットワーク化として企画運営を行いました。

講座は、市民の関心の高い医療や予防をテーマに、川崎市幸クリニックの杉山孝博先生をお迎えして講座を開催しました。一方、年度当初に定めた「人材のネットワーク化」という課題については、中間評価時点において取り組めていない状況であったため、改めて「人材のネットワーク化とは何か」について協議を行いました。

その結果、人や組織が「線」としてつながるというよりは、まずは認知症に理解を持つ一人ひとりが「点」として増えていくことが「ネットワーク化」につながっていくという認識が共有され、当面は「人材のネットワーク化」はサポーター養成講座や SOS メール配信登録を行う人を増やすという方向で合意されました。

【事業体系における位置付けと取組みの評価視点】

事業方針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりを更に進めます	
取組みの柱	1. 一般市民に対する認知症・虐待防止等の理解促進	
取組み	2) 認知症啓発講座	
取組みの対象と意図（目的）	対象	一般市民
	意図（目的）	認知症の人を支える人材の育成とネットワーク化
取組み・評価視点	視 点①家族介護者支援講座との棲み分けができているか 視 点②一般市民にあった（参加したい）テーマ設定になっているか	
取組み内容（予定）	視 点①「認知症の人と家族を支える地域づくりに向けて市民の認知症に対する理解促進を図る」という位置付けとする 視 点②これまでのアンケート結果から関心が高い認知症の予防の重要性や方法についての内容を盛り込む	
課題	課 題①テーマ設定根拠の明確化 解決策①アンケート結果から関心が高い内容を盛り込む 課 題②認知症を支える人材のネットワーク化 解決策②サポーター養成講座、SOS ネットワークなどの市民参加の取組の拡大	

平成 25 年度「認知症啓発講座」は、これまで在宅医療に精力的に取り組まれてきた、川崎幸クリニック院長・杉山孝博先生をお招きし、認知症の基礎知識と地域づくりの啓発を目的として講演いただきました。また、当日、受付周辺にポスター展示を行ったり、講演終盤で日野市の取組みの紹介を行いました。

講座は、在宅医療の経験から先生が考案された「認知症をよく理解するための 9 大法則・1 原則」を中心に進められ、認知症の方の様々な症例を挙げながら、その原因や対応策についてお話いただきました。

参加者の約 9 割が、講座は「良かった」と回答しており、杉山先生の豊富な事例をもとにした、具体的でわかりやすく、またユーモア溢れるお話に参加者が大変満足されたことが伺えます。

『「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」について、どのような協力ができるか』というアンケート設問については、「認知症に対する理解を深める」が約 8 割、「自分の家族が認知症になったらやさしく接する」が約 7 割、「地域で認知症高齢者に対し、あいさつや声かけをしながら見守る」が約 6 割という結果となっており、認知症への関心と意識の高さが伺えました。

■取組みの実施状況（視点と課題への対応状況）

視 点①	家族介護者支援講座との棲み分けが できているか	認知症啓発講座では、一般市民が認知症に対し興味を持ち、認知症についての基本的な理解ができる講座にした。
視 点②	一般市民にあった（参加したい）テーマ設定になっているか	これまでのアンケートから医療への関心が高かったため、講師は長年在宅医療に取り組んできた著名な医師とし、内容も、認知症の基本的な話や予防の話を盛り込んだ。
課 題①	テーマ設定根拠の明確化	視点②と同じ
課 題②	認知症を支える人材のネットワーク化	講座の最後に包括の案内、家族交流会の案内、認知症サポーター養成講座の案内を実施した。

■開催概要

開催日時	平成25年11月26（火）14:00～16:00（開場：13:30）
開催場所	ひの煉瓦ホール（日野市民会館小ホール）
実施主体	日野市高齢福祉課
司会	高瀬和枝氏（地域包括支援センターあいりん）
定員（参加者数）	200名（167名）
プログラム （計120分）	1. 開会 挨拶（5分） 高齢福祉課長 2. 講義（100分） 講師：杉山孝博先生（川崎幸（さいわい）クリニック院長） テーマ：認知症の理解と援助～認知症になっても安心して暮らせる地域をめざして～ 3. 質疑応答（10分） 4. 市の取り組み紹介・PR（4分） ①地域包括支援センター ②家族介護者交流会 ③認知症サポーター養成講座 5. 閉会 挨拶（1分）

■講座の様子



上 段：杉山先生
中段左：熱心に聞き入る参加者
中段右：受付（講演終了後）



下 段：見守り推進ネットワーク、地域包括支援センター等のPRポスター展示



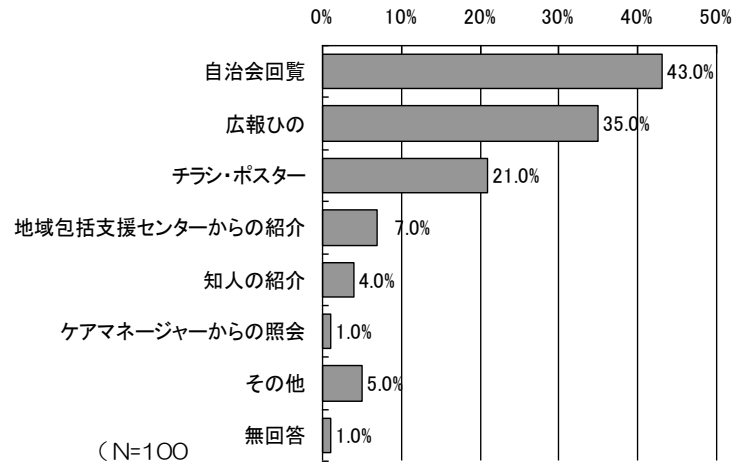
認知症啓発講座 アンケート結果

【アンケート回収状況】

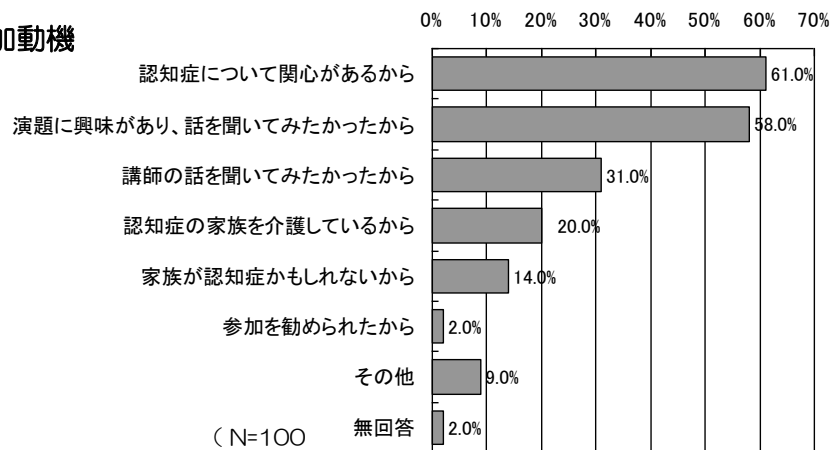
講座名：認知症の理解と援助～認知症になっても安心して暮らせる地域をめざして～

参加者数：167人 回収数：264枚 回収率：49.1%

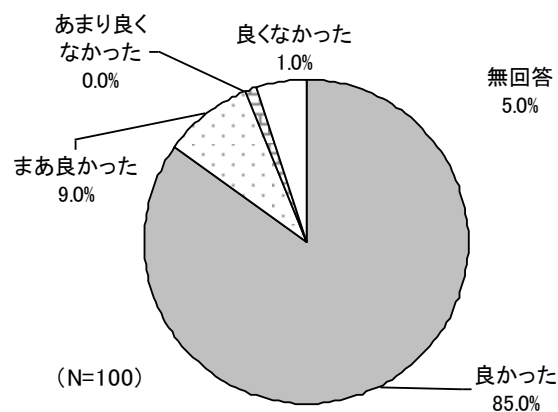
1. 講座についてどこで知ったか



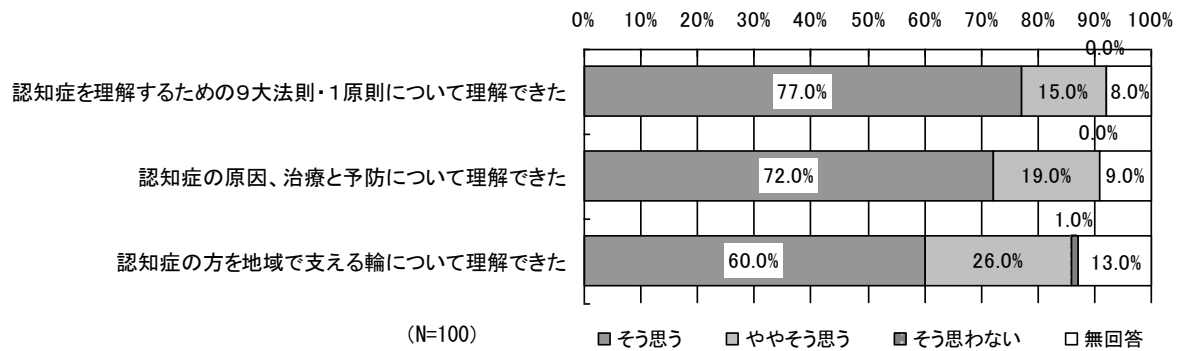
2. 参加動機



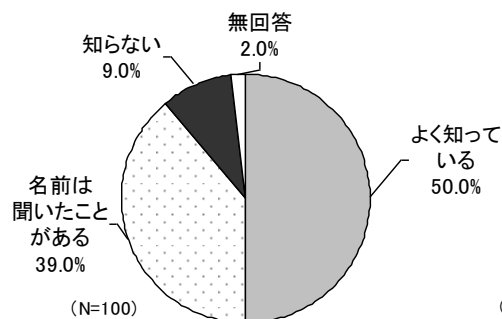
3. 感想



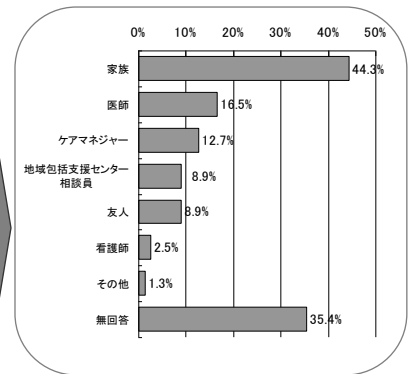
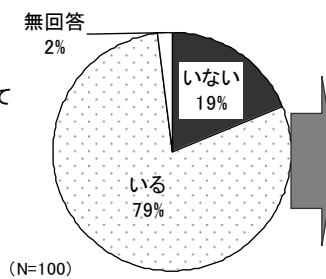
4. 講座で感じたこと



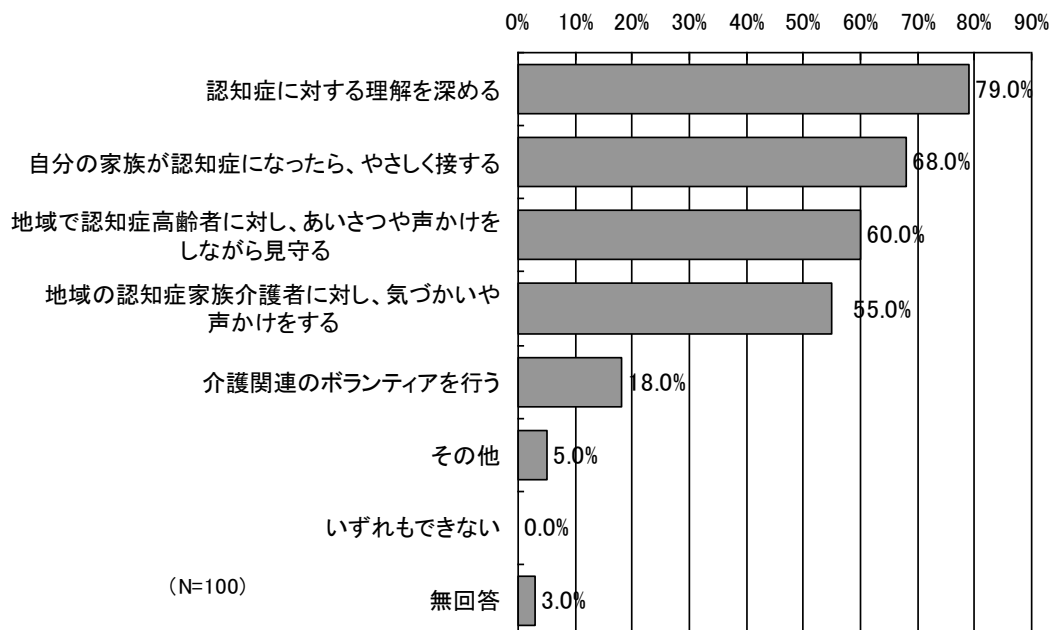
5. 地域包括支援センターの認知度



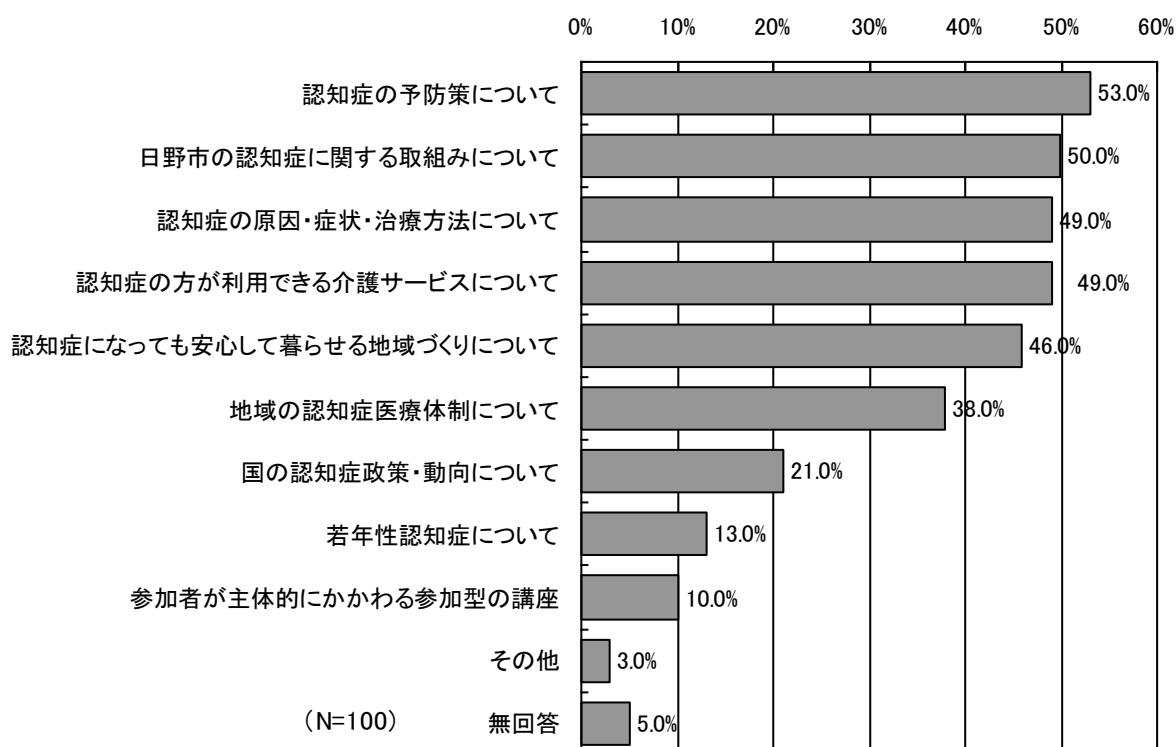
6. 相談相手の有無



7. 認知症になっても安心して暮らせる地域づくりににおいて協力できること

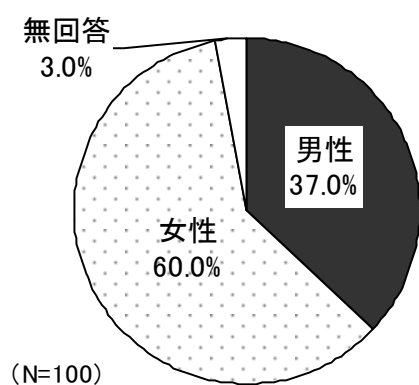


8. 今後、認知症に関する講座に期待するテーマ等

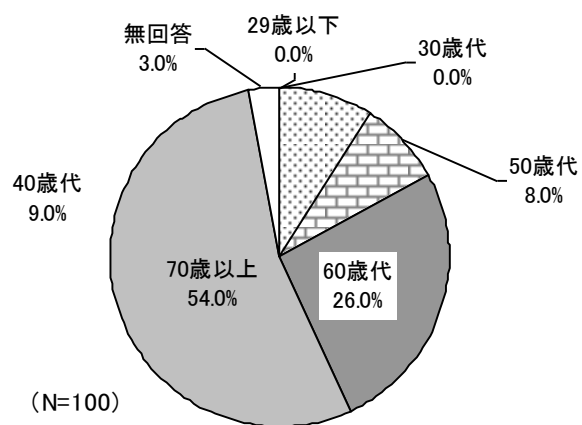


9. 属性

①性別



②年代



2) 認知症サポーター養成講座

認知症サポーター養成講座は、平成 18 年度より地域住民等を対象として毎年開催しています。講座の対象者は地域住民が中心でしたが、平成 22 年度より、日野市役所の全職員（病院を除く）の受講を目指して毎年職員対象の講座を開催するとともに、近年では、学校や民間企業など、対象の幅を広げて実施しています。

今年度の開催総数は 31 回、講座の参加者は 849 名でしたが、昨年度（46 回開催、1,130 名）よりも少ない実績となりました。これまでの講座参加者数累計は、6,138 人となっており、日野市高齢者総合福祉計画にて設置されたサポーター数の目標は、平成 25 年度時点で 4,500 人であるため、目標を超える結果となっています。

平成 25 年度は、当講座の更なるステップアップを目指し、昨年度に引き続き①参加者の参加を促す工夫、②受講者層の年齢的な広がり確保、③（受講後の）次の活動につながる検討、という 3 つの視点を踏まえて開催しました。また、課題として①組織への講座開催の働きかけ、②ステップアップ講座の検討と講師の質の向上を目指しました。

団体への働きかけとしては、シルバー人材センター、日野市商工会、新任民生員等を対象に実施することができたとともに、年代の広がりとしては、昨年度に引き続き中学校（日野市立第 1 中学校 3 年生）や PTA（日野市立第 2 中学校 P T A）に働きかけ、実施に至りました。また、講師役を務めるキャラバンメイトが使う日野市標準教材（パワーポイント）の検討を進めました。

次年度は、日野市標準教材の完成、キャラバンメイト連絡会の実施、企業向け実施の検討、一度アプローチしたものの実施に至っていない相手に対するフォローが課題となっています。

【サポーター養成講座参加者内訳】

開催対象団体	平成 25 年度		平成 24 年度	
	受講者数	%	受講者数	%
学校	328	38.6	143	12.6
企業・職域団体	233	27.4	246	21.7
行政関係	74	8.7	382	33.7
一般住民	214	25.2	361	31.9
合計	849	100.0	1,132	100.0

「認知症サポーターキャラバン」
マスコットキャラクター



【事業体系における位置付けと取組みの評価視点】

事業方針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりを更に進めます	
取組みの柱	2. 一般市民に対する認知症・虐待防止等の理解促進	
取組み	2) 認知症サポーター養成講座	
取組みの対象と意図（目的）	対象	一般市民
	意図（目的）	認知症の人を支える人材の育成とネットワーク化
取組み・評価視点	視点①参加を促す周知方法の工夫はあるか 視点②受講者層の年齢的な広がり確保されているか 視点③次の活動につながる検討はできているか	
取組み内容（予定）	視点①能動的に各団体に取組を促す 視点②中学校やボランティアセンターなどの幅広い団体へ実施する 視点③SOS ネットワークメール配信サービスや協力事業所への登録を促す	
課題	課題①組織への講座開催の働きかけ 解決策①メイトのつながりを積極的に活用し、中学校、シルバー人材センター、ボランティアセンター等の組織への働きかけを実施する 課題②ステップアップ講座の検討と講師の質の向上 解決策②ステップアップ講座の対象者把握方法や内容を検討する。メイトの勉強会等を実施し、共通のパワーポイントの作成などを検討する	
取組みの実施状況	視点①シルバー人材センター、日野市商工会、新任民生委員等に対し、取組みを促した。 視点②中学校やPTA に対し、取組みを促した。 視点③日野市の標準教材を作成中。その中で、SOS ネットワーク等の案内を盛り込む。 課題①メイトのつながりにより、中学校へ取組みを促した。 課題②メイトの勉強会や、日野市標準様式を作成中。また、アンケートを実施、名簿を作成することを検討。	

■ 講座の様子：



3) 虐待防止啓発

平成 22 年度に、「認知症高齢者支援事業」、および「高齢者虐待防止対策事業」が統合されて以来、虐待防止の取組みの充実が課題となっていたため、昨年度は虐待防止の市民啓発の第一歩として「広報ひの」での啓発記事を掲載しました。

今年度は、取組みをさらに一歩進めて、虐待防止啓発のためのちらしを作成し、認知症啓発講座のちらしと一緒に市内の全自治会に回覧をしました。

【事業体系における位置付けと取組みの評価視点】

事業方針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりを更に進めます	
取組みの柱	2. 一般市民に対する認知症・虐待防止等の理解促進	
取組み	3) 虐待防止月間	
取組みの対象 と意図（目的）	対象	一般市民
	意図（目的）	認知症の人を支える人材の育成とネットワーク化
取組み・ 評価視点	視 点①規模、構成、内容は適切か 視 点②地域の虐待の実状をふまえ、地域に必要とされる情報提供や発信になっているか	
取組み内容 （予定）	視 点①チラシを作成し、自治会回覧板に掲載するなど、広く周知する 視 点②虐待の通報だけでなく、介護疲労などの相談もできるように周知方法を工夫する	
課題	課 題①他部会との連携 解決策①チラシを作成し、各講座でも周知を図るほか、障害福祉課とのコラボを検討する。サポーター養成講座時に虐待啓発を行うことを検討する。	
取組の実施状況	視 点①チラシを作成し、10月10日に自治会に対し配布した。 視 点②チラシの内容を介護疲労などの相談できるような配慮をした。 課 題①障害福祉課とのコラボは未実施。サポーター養成講座時の虐待啓発は日野市標準教材作成時に盛り込む予定。	

地域みんなで、 高齢者虐待を防ごう！

～高齢者虐待は、誰にでも起こりうる
私たちの身近にある問題です～

平成 18 年 4 月 1 日「高齢者の虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行されました。この法律は、深刻な問題になっている高齢者への虐待を防止し、また、高齢者を介護する家族を支援することで、高齢者の権利や利益を守ることを目的としています。

Q. どうして高齢者虐待は起こるの？

高齢者を介護する家族の負担は考える以上に大きく、「家族だからこそきちんとしなければ」という責任からくる介護疲れにより虐待が始まることも少なくありません。また、認知症への理解不足により、自覚なく虐待を行ってしまっている場合があります。



家族

【虐待の要因】

- 認知症に対する理解不足
- 介護疲れ
- 生活苦
- 人格や性格
- これまでの人間関係
- 介護に関する知識不足
- 家族・親族の無関心

特に、認知症高齢者への虐待が多くなっています

Q. 高齢者虐待にはどのようなものがあるの？

虐待は体を傷つけることだけではなく、心を傷つけることや、世話を放棄すること、年金の使い込みなども虐待にあたります。

身体的虐待



身体に傷やアザ、
痛みを与える暴力

心理的虐待



無視、脅し、言葉の
暴力など

介護・世話の 放棄、放任



食事を与えない
など

経済的虐待



必要なお金を渡さない、
年金の使い込み
など

性的虐待

本人が同意して
いない性的な行
為やその強要

※裏面もご覧下さい→

Q、私たちはなにをすればいいの？

高齢者を介護するご家族は、これまでの介護が虐待になっていないか振り返りましょう。不安に思ったことがあれば、ためらわずに相談しましょう。

地域の住民は、高齢者やそのご家族の言動、暮らしの様子などから虐待につながる小さなサインに気づきましょう。ご家族が一人で介護を抱え込まないよう、周りの人が温かい言葉をかけたりするなど、具体的に手を差し伸べることも大切です。日々の生活のなかで、一人ひとりが少し「気にかける」ことで、虐待を未然に防ぎましょう。

ご家族は

介護にちょっと疲れたな・・・不安だな・・・



介護に対する不安や
困り事があれば・・・

地域住民は

～みんなで気かけ、気づき、虐待の起こらない地域づくりを
すすめよう！～

あいさつ

こんにちは。
お元気ですか？

声かけ

どうかしましたか？



ちょっとでも「あれ？」と
思ったら・・・

お近くの「地域包括支援センター」にご連絡・ご相談ください

地域包括支援センターは保健、介護、福祉という3分野の専門職が連携し、地域の高齢者のさまざまな相談に対応する公的機関です。秘密は厳守しますので、安心してご相談ください。

地域包括支援センター名	電話番号	担当地域
もぐさ	599-0536	百草、落川、程久保、三沢2丁目
あさかわ	593-1919	高幡、三沢、三沢1・3～5丁目、新井、石田（浅川南）、程久保1～8丁目
すてっぷ	582-7367	豊田、東豊田、旭が丘2・5・6丁目、多摩平1・2丁目、富士町
あいりん	586-9141	多摩平3～7丁目、日野台4・5丁目、大坂上
せせらぎ	589-3560	日野本町、神明、日野台1～3丁目、栄町、新町
多摩川苑	582-1707	万願寺、上田、川辺堀之内、日野宮、石田1・2丁目、石田（浅川北）
いきいきタウン	585-7071	東平山2・3丁目、平山
すずらん	599-5531	南平
かわきた	589-1710	旭が丘1・3・4丁目、西平山、東平山1丁目

受付時間：月～金曜日 午前9時～午後6時

日野市健康福祉部 高齢福祉課

〒191・0016 東京都日野市神明 1-12-1 電話 042・585・1111(代表)

(3)介護サービス従事者等の資質向上

1) 介護サービス従事者研修

介護サービス従事者等を対象とした、認知症や高齢者虐待等の困難ケース対応のスキルアップを目的とした研修として、平成 22 年度より開催しています。今年度は昨年度に引き続き、①介護現場に必要なテーマ設定・開催時間の工夫、②現場での活用を意図した企画、③研修成果の検証の取組み、の3つの視点を踏まえ、研修の企画運営を行いました。また、①テーマ設定理由の明確化、②テーマ・目的に応じた効果的な手法の導入や対象者に適切な開催時間の設定を課題としました。

第1回は「多職種連携～気づきをテーマに話そう～」として、多職種連携に向けた立場・職種の異なる従事者がそれぞれの視点で話し合う機会、第2回は、普段はなかなか顔を合わせることのないケアマネジャーと民生委員が顔を合わせて、それぞれの立場から話をするなど、新たな気づきや今後の連携につながる機会となりました。

【事業体系における位置付けと取組みの評価視点】

事業方針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりを更に進めます	
取組みの柱	3. 介護サービス従事者等の資質向上介護サービス従事者	
取組み	1) 介護サービス従事者研修	
取組みの対象と意図（目的）	対象	介護サービス従事者
	意図（目的）	認知症や高齢者虐待の理解・スキルアップ
取組み・評価視点	視 点①	介護現場に必要なテーマ設定、開催時間の工夫が行われているか
	視 点②	現場での活用が意図されているか
	視 点③	研修成果を検証する取組みがあるか
取組み内容（予定）	視 点①	「気づき」をテーマにし、早めに開催通知を行う事で参加しやすい環境を整えられるようにする。
	視 点②	他の職種の視点を学び気づきの目を養うことにより、他職種連携、虐待や異常の早期発見につながる。
	視 点③	研修終了時のアンケートで研修の理解度をはかる。業務に活かせるかの具体的内容を記載できるように、質問を工夫する。

課題	課題①テーマ設定理由の明確化 解決策①個々のスキルアップを図る事で早期発見し、問題の深刻化を防ぐ。又、多業種のワークを実施する事で、昨年のアンケート結果にあったような、地域のネットワーク構築につなげる。 課題②テーマ・目的に応じた効果的な手法の導入や対象者に適切な開催時間の設定 解決策②H24 年度の振り返りにあったように、地域ケア会議の土台作りとして他職種のネットワーク作りができるようグループワークを行なう。開催時間に関しては、他のイベントを参考にしながら検証する。 課題③研修効果・評価の仕組みの具体化 解決策③具体的に評価しやすいアンケートの設問の検討
----	---

①第1回介護サービス従事者研修

虐待の芽や異常の早期発見ができるよう、多職種連携の推進を目的とした研修を実施しました。

職種の異なる介護サービス従事者が同じテーブルにつき、リスクの高い架空事例をもとに、それぞれの立場からの「気づき」を共有し多角的視点を養う機会としました。それぞれのテーブルには、地域包括支援センターがファシリテーターとして入り、アドバイスも行うことで支援センターの役割の理解も深めることができました。

参加者が参加しやすい工夫として、市内を2つの地域に分けて同じ内容の研修を2回行いました。また、介護保険集団指導と合わせて行ったことにより、医療系も含めて多くの職種に参加いただくことができました。

アンケート結果では、約7割が「参考になった」と回答するとともに、「多職種のさまざまな人と話ができ、いろいろな視点があることわかった」「多職種連携の必要性がわかった」という感想が多数寄せられました。課題としては、2回に分けて実施したことにより、参加人数に偏りが出てしまったことがあげられます。

■取り組みの実施状況（視点と課題への対応状況）

視点①	「気づき」をテーマにし、早めに開催通知を行う事で参加しやすい環境を整えられるようにする。	テーマ設定：多職種の人が同じテーブルにつく事によって、各々の立場により気づきについての着目点の違いがあり多角的視点を養えた。周知通知：ほぼ1ヶ月前から周知する事により、参加しやすい環境を整えられるよう工夫した。月末月初の開催は要検討。また、日程を2日にして参加の工夫
-----	---	--

視 点②	現場での活用が意図されているか。	2部において集団指導をする事により、日頃参加の少ない訪看などの事業所の参加があった。グループ分けのメンバーを職種が偏らないよう工夫した。
視 点③	研修終了時のアンケートで研修の理解度をはかる。業務に活かせるかの具体的内容を記載できるように、質問を工夫する。	報告の大切さがわかったとのアンケート結果記載があった。グループ分けを工夫する事で、より多くの職種の方と話し合える機会が提供できた。
課 題①	テーマ設定理由の明確化	報告の大切さがわかったとのアンケート結果記載があった。グループ分けを工夫する事で、より多くの職種の方と話し合える機会が提供できた。
課 題②	目的に応じた効果的な手法の導入や対象者に適切な開催時間の設定	テーブルを決める時、職種が偏らないように配置する事で、多職種の意見を聴く事ができた。開催時間に関しては、ほとんどの方が午後で良いとの意見だった。ファシリテーターへの事前申し送りの時間をしっかりととり、研修の方向性を共有できるように工夫をしていく。参加人数の偏りがあった。

■開催概要

研修名	「多職種連携～気づきをテーマに話そう～」
開催日時	第1回：平成25年7月30日（火） 14:00～16:00 第2回：平成25年8月 1日（木） 14:00～16:00
開催場所	第1・2回：マザアス日野 1F 地域交流スペース
開催形態	日野市日野市社会福祉協議会との共催
司会	第1回 相馬みゆき氏（地域包括支援センターすずらん） 第2回 浅見ゆかり氏（地域包括支援センター多摩川苑）
参加者数	第1回：29人 第2回：56人
プログラム	1. 開会：開始のことば・資料確認・名札・研修主旨・本日の流れ 2. 高齢福祉課からのご挨拶 3. 司会者からの事例紹介 4. グループワーク 5. グループワーク発表・質疑応答 6. 全体の質疑応答 7. まとめ 8. 閉会

■研修の様子



②第2回介護サービス従事者研修

地域包括ケアシステムの構築が求められるなか、在宅医療を進める多職種連携や地域のネットワークづくりが必要となっています。そうした背景から、ともに地域の高齢者を支える立場でありながら、普段はなかなか顔を合わせる機会のないケアマネジャーと民生委員を対象に、地域における認知症高齢者支援とその家族への支援をテーマに自由に話しあう機会を研修として提供しました。

全 55 名の参加がある中、5 名程度のグループのなかで活発な話し合いが行われ、会場は熱気につつまれました。アンケート結果からも、「それぞれ今後（何か困ったことがあったら）相談するか」という質問に対して 7～8 割が「相談する」と回答しており、身近な地域における顔の見える関係づくりに寄与したと考えられます。

■取組みの実施状況（視点と課題への対応状況）

視 点①	「気づき」をテーマにし、早めに開催通知を行う事で参加しやすい環境を整えられるようにする。	各団体に 2 ヶ月以上前に働きかけ、早めに人選し、1 ヶ月に通知できた。
視 点②	現場での活用が意図されているか。	今迄にない試みで、多職種連携の場ができた。お互いの変さが理解できた。介護保険の枠にとらわれず、地域の方の直接結びついた。
視 点③	研修終了時のアンケートで研修の理解度をはかる。業務に活かせるかの具体的内容を記載できるように、質問を工夫する。	自由意見の記載が活用できた。
課 題①	テーマ設定理由の明確化	地域のネットワーク構築ができた。職種間の垣根を取り払えた。

課 題②	目的に応じた効果的な手法の導入や対象者に適切な開催時間の設定	地域ケア会議の土台作り、多職種のネットワーク作りができた。出席率が高かったので、開催時間設定に問題なかった。
課題③	研修効果・評価の仕組みの具体化	民生委員、ケアマネのそれぞれに「今後それぞれ相談をするか」という設問をアンケートで聞き、「相談をする」と回答した割合が高かった。

■開催概要

研修名	考えよう！地域における認知症高齢者とその家族への支援
開催日時	平成 26 年 2 月 26 日（水） 14：00～16：00
開催場所	日野市役所 505 会議室
開催形態	日野市高齢福祉課
司会	相馬みゆき氏（地域包括支援センターすずらん）
参加者数	55 名（民生委員 25 名、ケアマネ 35 名）
プログラム	1. 開会 高齢福祉課からご挨拶 2. 各代表者から活動紹介 高齡福祉課・民生委員代表・ケアマネ協議会代表・包括代表 3. グループワーク ①話そう！普段の活動 ②解決しよう！認知症高齢者対応で困ったこと 4. グループ発表 5. まとめ 6. 閉会

■研修の様子



グループワーク



各班の発表

介護サービス従事者研修 アンケート結果

【アンケート回収状況】

1. 第1回：「多職種連携～気づきをテーマに話そう～」

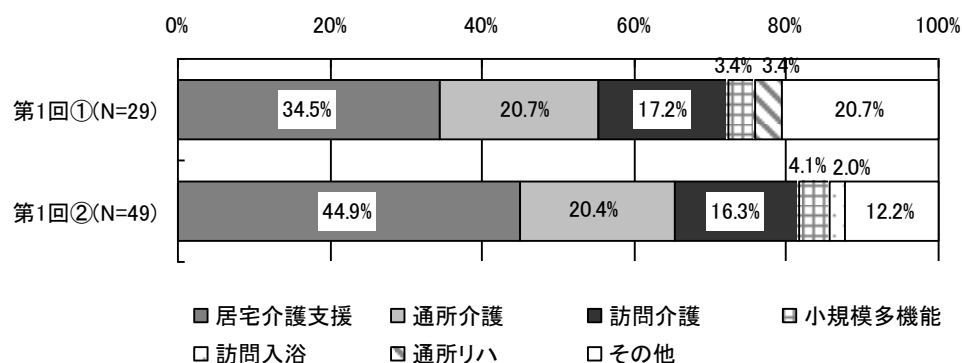
① 7月30日 参加者数：29人 回収数：29枚 回収率：100.0%

② 8月1日 参加者数：56人 回収数：49枚 回収率：87.5%

2. 第2回：「考えよう！地域における認知症高齢者とその家族への支援」

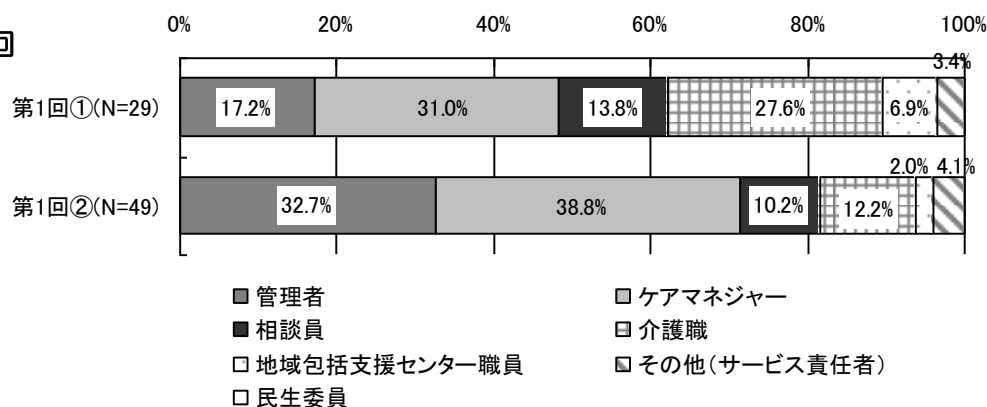
参加者数：55人 回収数：48枚 回収率：87.3%

1. 事業所種別

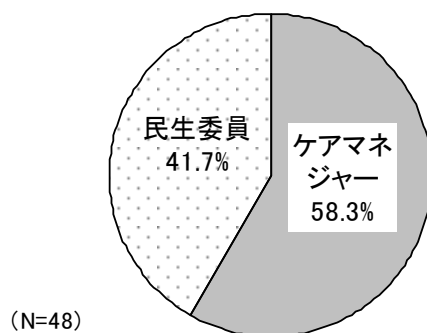


2. 立場

第1回

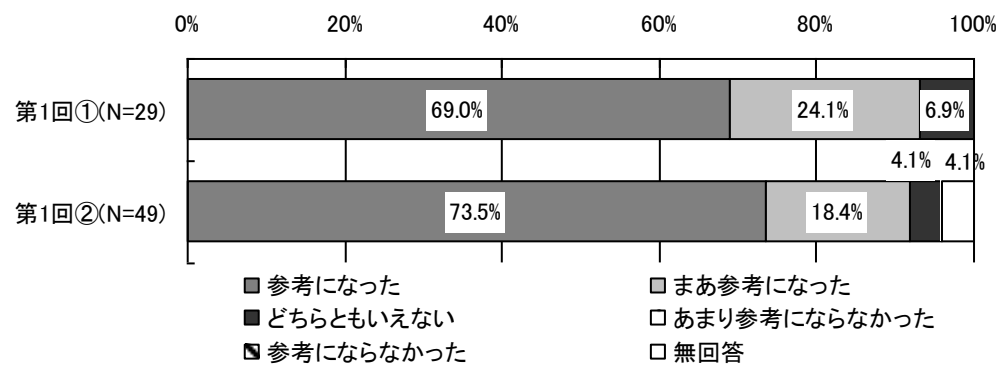


第2回

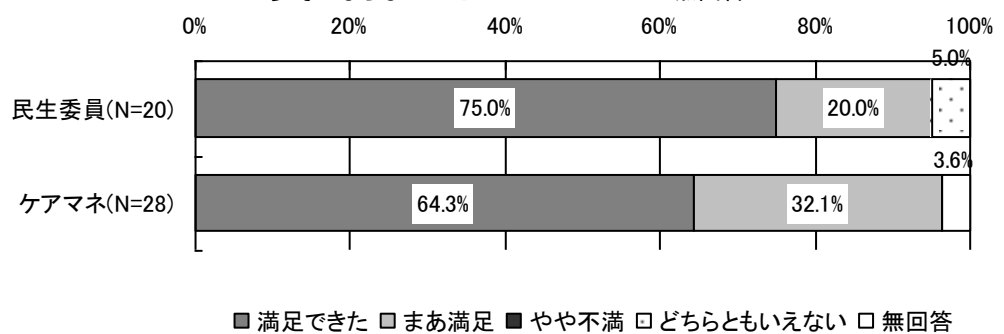


3. 研修内容について

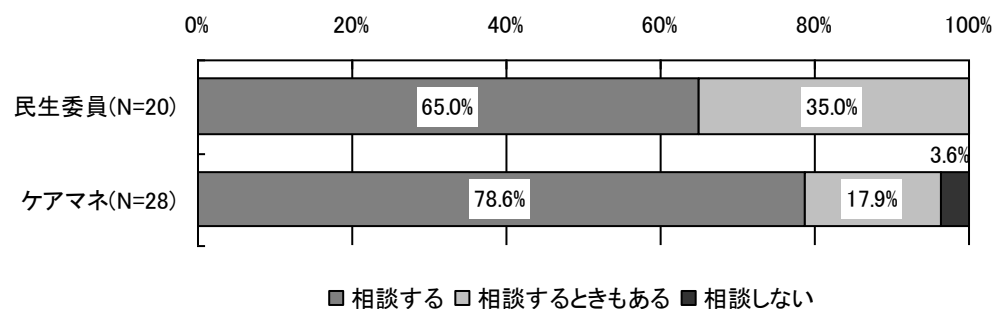
第1回



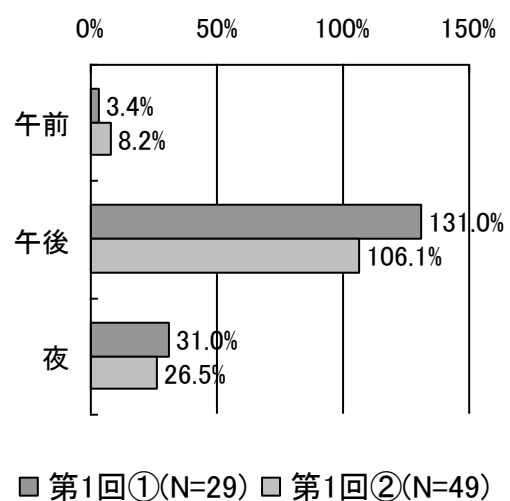
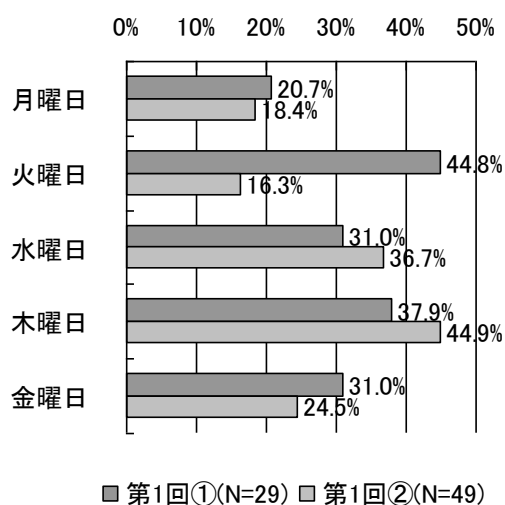
第2回



4. 今後それぞれ相談するか（第2回）



5. 参加しやすい曜日・時間帯（第1回）



（４）関係機関のネットワーク構築

１）関係機関連絡会

認知症高齢者とその家族を支援していくなかでは、介護・福祉にとどまらない複合的な課題を抱えるケースや、本人の拒否などにより支援の困難なケースがあるため、関係機関間の連携や協議体制を整えることが大変重要です。このため、平成 22 年度より、困難事例検討を通じた「顔の見える関係づくり」を目的として、関係機関連絡会¹を開催しています。

今年度は、①事例に際して、関係機関相互にどのような動きや連携が可能か、②連絡会参加者の構成は適切か、という２つの視点に留意しながら連絡会を企画しました。開催にあたっては、テーマに応じたメンバー設定を課題として設定しました。

①については、事例発表者と事前に打ち合わせを行い、連絡会の趣旨を説明しました。また、参加者に対して事前に事例概要と予め用意した質問を配付し、当日の意見交換が有意義なものになるよう努めました。②については、実際に事例に関わった方に参加していただくことでより具体的な協議ができるよう配慮しました。

【事業体系における位置付けと取組みの評価視点】

事業方針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりを更に進めます	
取組みの柱	４．関係機関のネットワーク構築	
取組み	１）関係機関連絡会	
取組みの対象と意図（目的）	対象	関係機関
	意図（目的）	多様な関係機関同士の効果的な連携の推進
取組み・評価視点	視 点①事例に際して、関係機関相互にどのような動きや連携が可能か、効果的かを共有できる会議になっているか	
	視 点②連絡会参加者の構成は適切か	
取組み内容（予定）	視 点①単なる事例検討にせず、各機関それぞれの立場で、どう関わっていけるかを引き出せるように司会進行する。事前に事例を配り、各機関でどう関われるかを検討できるようにする。事例テーマを医療ケースと地域の身近な困りごとケースで設定する。	
	視 点②事例内容に合わせて招集する機関や参加者を決定する。会議に参加できる包括メンバーは、各生活圏域で１名とし、代わりに傍聴席を設ける。	
課題	課 題①テーマに応じたメンバー設定 解決策：医療ケースの時には、参加者を医師に限らず、医療関係者（PSW,MSW 等）に必ず参加してもらう。地域のケースの時には、交番の警察官や民生委員、自治会長、	

¹ 日野警察署、南多摩保健所、日野市ケアマネ協議会、権利擁護センター日野、地域包括支援センター、日野市役所関係各課（健康課、障害福祉課、生活福祉課、高齢福祉課）

取組み実施状況	老人会長等実際に関わってくれそうな人に参加を依頼する。 <第1回> 開催日時：平成25年7月26日（金） 開催場所：日野市役所501会議室 会議テーマ：「精神疾患の孫からの虐待ケース」 視 点①子家センターと七生病院に事前に出向いて会の目的を伝えて会に臨んでもらった。参加者全員に事前に、事例と意見を頂きたいことを配布した。 視 点②事例に関わった機関（子ども家庭支援センター、七生病院（PSW）に参加して頂いた。包括は全包括9名が参加し、意見を発表する人は生活圏域に付き1名とした。 課 題①七生病院のPSWに参加して頂き、地域の精神科としてできる役割を説明して頂いた。
	<第2回> 開催日時：平成26年1月31日（金） 開催場所：日野市民会館 第2会議室 会議テーマ：「サービス利用に繋がりにくい徘徊高齢者」 視 点① 初めての試みとして民生委員に参加に参加していただいた。事前に趣旨を説明したことで、スムーズな進行につながった。 視 点② 第1回に引き続き、包括については圏域ごとの発表者とするにより、意見が一つの機関に偏らないようになった。 課 題① 徘徊高齢者という身近なケース事例につき、民生委員に来ていただいた。個人情報保護や、会議のフィードバックの難しさから自治会長や老人会会長等に来ていただくことは見送った。

2) 虐待防止マニュアルの改定

日野市では、平成 18 年度、虐待案件への対応の流れや帳票類を定めた「高齢者虐待防止対応・防止マニュアル」の作成を行い、平成 19 年～平成 21 年度まで毎年改訂を行ってきました。昨年度は、マニュアルの運用にばらつきが見られることや、帳票類の整理の必要性が認識されたことから、①長期的に関わるケースへの対応、②運用にあわせたマニュアル、③関係機関の動きがわかる改訂、の3つの視点を踏まえ、改訂作業を進めるための検討を進め、今年度は実際に改訂作業を進めました。次年度は、改定後のマニュアルを関係者に周知していくことが課題です。

【事業体系における位置付けと取組みの評価視点】

事業方針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりを更に進めます	
取組みの柱	4. 関係機関のネットワーク構築	
取組み	2) 虐待防止マニュアルの改定	
取組みの対象と意図（目的）	対象	関係機関
	意図（目的）	多様な関係機関同士の効果的な連携の推進
取組み・評価視点	視 点①長期的に関わるケースに対応しているか 視 点②運用にあわせたマニュアルとなっているか 視 点③虐待防止の目的と課題をふまえ、関係機関や市民の動きがわかる改定になっているか	
取組み内容（予定）	視 点①発生時だけでなく、継続してフォローするために、誰がいつまでに何をするかを明確にする書式にする 視 点②包括から出された意見をもとに、運用にあわせたマニュアル作成を行う 視 点③虐待発生時の立入調査など、判断に迷うケースの QA など載せる	
課題	課 題①マニュアル改訂の実施 解決策①改訂を実施する。ネットワーク化部会メンバーだけでなく、包括の社福会から2～3名参加してもらい、委員会を立ち上げる。包括連絡会や社福会等と連携をとりながら、委員会にて改定案を作成・決定する。	
取組み実施状況	虐待マニュアルの改訂が完成した。虐待事例に対し、発生時対応だけでなく、継続的に終結まで支援できるマニュアルを作成した。包括が虐待対応しやすいよう、対応段階における具体的な行動や考え方を明記した。	

3) SOSネットワークの充実

日野市では、平成 20 年度から平成 21 年度にかけて、徘徊により行方不明となった高齢者の捜索・保護の体制として「日野市認知症徘徊高齢者 SOS ネットワーク」の仕組みを構築しました。これは、徘徊のおそれのある認知症の方の基本情報を事前登録し、徘徊発生時には関係機関への呼びかけを行うとともに、日野市メール配信サービスに登録している市民の方に情報をメールでお知らせし、捜査に協力頂くというものです。

今年度は、当事業をより多くの方に知っていただき、登録・参加協力いただくため、当取組みの周知啓発の工夫およびPR効果の検証を評価視点として、取組みを進めました。しかし、PR、登録者数の検証とも手法として実現困難であり、次年度はアプローチの見直しが求められます。

【事業体系における位置付けと取組みの評価視点】

事業方針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりを更に進めます	
取組みの柱	4. 関係機関のネットワーク構築	
取組み	3) SOS ネットワークの充実	
取組みの対象と意図（目的）	対象	関係機関
	意図（目的）	多様な関係機関同士の効果的な連携の推進
取組み・評価視点	視点①SOS ネットワークの事業の啓発の工夫がされているか 視点②啓発結果の検証はできているか	
取組み内容（予定）	視点①名称が分かりにくいのでサブタイトルなどをつける。CATVなど今までしてこなかったメディアで広報する。 事前登録とメール配信登録でターゲットをわけるといった工夫をする。 視点②徘徊経験者中の登録数など具体的に数字を出し期間を決めて検証する	
課題	課題①広報活動の充実・登録者数の増加 1. 事前登録については包括からCMを通して徘徊リスクのある人への登録を促す（CM交流会の場を利用） 2. 「3世代がよりそう暮らし」で子供たちと高齢者の双方を見守るというアプローチでタイアップして、パンフレットや広報ひのでSOSネットワークの事前登録やメール配信を促す。 3. メール配信登録については小中学校のPTAに高齢者行方不明情報の配信に <u>口づけて</u> もらうように促す。 課題②広報効果の検証方法の検討 1. 徘徊した人の中で事前登録者数をだし、その割合を上げる	

	ことを目標に広報し、一定期間後に検証する。 2. メール配信登録者数（メールを配信した数）を出して目標を決めて一定期間後検証する。
取組の実施状況	視 点①パンフレットについては、前回作成時の残りがあるため、改定できず。CATVでの広報は広報ひのへの掲載が条件であるが、SOSネットワーク単体での広報ひのへの掲載が難しかったため、実施できなかった。 視 点②具体的な目標数の設定等は実施できなかった。 課 題①ケアマネ交流会での広報は実施、子育て課にて実施しているタニゾウコンサート時は打診したが難しかった。 課 題②個別の取組とメール配信サービスの登録者数の伸びの検証は困難。

4. 事業推進の成果と課題

（１）事業評価

第3回推進会議では、各部会による取組みの評価（次ページ「最終評価まとめ」参照）をもとに、事業最終評価を行いました。部会での評価結果から、事業は概ね順調に進んだと言えます。認知症家族介護者支援講座、認知症啓発講座、関係機関連絡会などの講座・研修系の取組みについては評価が高い一方、認知症地域資源マップの作成や、SOS ネットワークの充実など一部の取組みにおいて年度当初設定した取組みの視点や課題が実施できず、評価が低くなっているものがありました。推進会議での評価もほぼ同様の結果となりました。

講座や研修の評価が高い理由としては、ある程度事業推進の手法が確立してきており、内容や質の向上に注力できるということや単発行事のため目的の明確化や成果が測りやすいということが考えられます。一方、認知症家族介護者交流会や認知症サポーター養成講座の展開、虐待防止啓発、虐待マニュアルの改訂、SOS ネットワークの充実などは、内容の企画検討の他新たな手法等についても検討の必要があること、また関係者との調整などもあることから成果が出しづらく、また測りにくいことも影響していると考えられます。

事業評価を試行的に開始して2年目となりましたが、次年度は、事業の質の向上を図るための新たな評価手法の検討や、これまでは個々の取組みを個別に評価していますが、事業全体としての評価方法の検討も課題と言えます。

（２）次年度の方向性

第3回推進会議では、今年度抽出された各取組みの課題および包括に実施した当事業の事業構成についてのアンケート結果を踏まえ、次年度の事業推進の方向性について以下の協議を行いました。その結果、①取組みの柱を3本に絞ること、②重点取組を設定すること、③認知症啓発月間を開催することについては、概ね合意を得られましたが、具体的な中身については意見が分かれました。

項目	内容
①取組の柱	取組の柱を3本にする ・目的が一部重複する「関係者育成部会」と「ネットワーク化推進部会」を統合し、現状4本の柱を3本とする。
②重点取組の設定	ステップアップを目指したい取組を「重点取組」に位置づけ ・重点取組の設定で取組みにメリハリをつけるとともに、事業成果を測りやすくする。
③重点取組の設定	事業内の横断的取組 ～認知症啓発月間の実施～ ・長らく各取組み間のつながりが課題となっていたことから、「月間」という形で集中的に取組を実施することで啓発効果や相乗効果を検証したい（認知症家族介護者支援講座からのつながり、市民啓発講座からのSOSNWへの登録、多職種間連携等）。

H25 日野市認知症高齢者支援（高齢者虐待防止対策）事業 最終報告まとめ

■事業実施状況

- ・【①取組みの実施状況について】年度当初に確認した「取組の視点」「課題」の達成状況は、「関係機関連絡会」が3点で最も高く、次いで「認知症家族介護者支援講座」「認知症啓発講座」が2.9点となっています。
- ・【②総合評価について】前半・後半を通した平均が「概ね順調に進んでいる」（評価点3）以上だったものは、「SOSネットワークの見直し」を除く全ての取組みとなっています。
- ・【①②の合計について】上記を総合した取組みの実施状況・総合評価の合計では、「関係機関連絡会」が7点で最も高く、次いで「認知症啓発講座」が6.9点、「認知症家族介護者支援講座」が6.4点となっています。一方、「SOSネットワークの充実」が4.3点、「認知症地域資源マップの作成」が4.75点と低くなっています。

取組みの柱	取組み	視点 数	中間評価								総合評価	
				前半	後半	平均	合計	1点	2点	3点		4点
1. 認知症高齢者および 家族介護者の支援体制の 整備	1)認知症家族介護者支援講座	2	①取組みの実施状況	2.8	3	2.9	6.4					4
		②総合評価	3	4	3.5							
	2)認知症家族介護者交流会	2	①取組みの実施状況	2.5	2	2.25	5.25					3
		②総合評価	3	3	3							
	3)認知症地域資源マップの作成	3	①取組みの実施状況	1.5	2	1.75	4.75					3
		②総合評価	3	3	3							
2. 一般市民に対する 認知症・虐待防止等 の理解促進	1)認知症啓発講座	2	①取組みの実施状況	2.8	3	2.9	6.9					4
		②総合評価	4	4	4							
	2)認知症サポーター養成講座	3	①取組みの実施状況	2.6	2	2.3	5.3					3
		②総合評価	3	3	3							
	3)虐待防止啓発	2	①取組みの実施状況	2.3	2.3	2.3	5.3					3
		②総合評価	3	3	3							
3. 介護サービス従事者等の 資質向上	1)介護サービス従事者研修	3	①取組みの実施状況	2.3	3	2.65	6.15					4
		②総合評価	3	4	3.5							
4. 関係機関ネットワーク構築	1)関係機関連絡会	2	①取組みの実施状況	3	3	3	7					4
		②総合評価	4	4	4							
	2)虐待防止マニュアルの改定	3	①取組みの実施状況	1	3	2	5.5					4
		②総合評価	3	4	3.5							
	3)SOSネットワークの充実	2	①取組みの実施状況	2.3	1.3	1.8	4.3					2
		②総合評価	3	2	2.5							

- ※ 配点および算出方法
- ①取組みの実施状況：視点・課題の点数（できた：3点、まあできた：2点、できなかった：1点）を加算し、視点・課題数で割り出した平均点
 - ②総合評価（順調に進んでいる：4点、概ね順調に進んでいる：3点、あまり順調に進んでいない：2点、改善が必要：1点）
 - 平均：①取組みの実施状況、②総合評価の前半・後半の平均点
 - 合計：①取組みの実施状況、及び②総合評価の平均点の合計
- ※ 集計に関する特記事項
- 1-2）認知症家族介護者交流会：視点③、課題②は評価対象外として集計
 - 1-3）認知症地域資源マップの作成：課題②は視点②と同様のため評価対象外、課題③は年度末検討予定のため評価対象外として集計
 - 2-3）虐待防止啓発：中間評価（後半）視点①、②は評価の記載がなかったが、記述内容から「1. できた」として集計
 - 4-3）SOSネットワークの充実：中間評価（前半）では①取組みの実施状況の評価の記載がなかったが、その後提出されたため合わせて集計

■取組みの成果と課題

取組みの柱	取組みの実施状況	評価		次年度に向けた課題
1 認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備 対象 認知症家族介護者 意図 専門知識の習得、介護負担の軽減	1) 認知症家族介護者支援講座	評価		
	第1回：平成25年7月24日（水） 「スウェーデン生まれのタクティールケア～「触れて」不安や痛みを和らげる認知症緩和ケア～」 第2回：平成26年2月22日（土） 「認知症家族介護者交流バスツアー」	4	視点①家族交流会では提供できない専門的内容を提供できた ・認知症緩和ケアの一手法 ・認知症疾患医療センターの役割 視点②他自治体ヒアリングや交流会での要望聴取 課題①対象者を家族としていことから2回とも参加・体験型とした 課題②包括職員による圏域ごとのPR 機会や交流会を兼ねたバスハイクという効果的な周知を実施 [総合評価] ◎ 体験型タクティールケア講座は介助者の技術習得の一助に。 ◎ 支援講座自体に家族交流を導入 ◎ 体験・参加型という新たな視点を取り入れることで、市民啓発講座との棲み分けが一定程度できた。	◎ 交流会参加者へのつなぎ（参加者増） ◎ 講座効果の検証（ニーズに応える企画）
	視点①交流会との棲み分け、関連性 視点②家族の直面する課題、旬のテーマ設定 課題①テーマ設定理由の明確化 課題②交流会参加への着実なつなぎ			
	2) 認知症家族介護者交流会	評価		
	視点①新たな参加者を促す周知方法 視点②新たな参加者を入りやすくする運営ができているか 課題①活動の一定の方向性の明確化	3	視点①家族介護支援講座や各事業において家族交流会のPRを実施 視点②全市的な交流機会として初めてバスツアーを実施	◎ 新たな参加者を増やす工夫 ◎ 家族会の周知方法 ◎ 圏域毎の家族会同士の横の連携や情報共有のあり方

			課題①部会担当者による圏域毎の家族会の見学により、特色や方向性の確認ができた [総合評価] ◎ 家族支援部会が交流会に積極的に働きかけや提言を行うことがそぐわないと考えられるが、当初の取組みとしては概ね順調。 ◎ 部会担当者が他圏域の家族会に参加したことは有効。 ◎ 圏域を超えたバスツアーは新たな交流機会として有効だった。	
	3) 認知症地域資源マップの作成	評価		
	視点①データベース作成の目的は明確か 視点②データベースの活用方策は検討できているか 視点③認知症の人やその家族が必要としている地域の支援に 応えるデータベースになっているか 課題①データベースの充実	3	視点①相談対応に活用するとして作成することを明確化した 視点②紙ベース（ファイル形式）として作成し、窓口で活用 視点③認知症に特化した情報を精査・抽出 課題①集約した情報を各包括に戻り、精査・追記した [総合評価] ◎ 具体的なタイムスケジュールを設定し、計画的に実施した。 ◎ 当初のマップという形ではなくなったが、包括ならではの情報として活用が期待される。	◎ 更新ルールの検討 ◎ 活用状況を踏まえた今後の展開の検討
2 一般市民に対する認知症・虐待防止等の理解促進 対象 一般市民 意図 認知症の人を支える人材の育成とネットワーク化	1) 認知症啓発講座	評価		
	平成 25 年 11 月 26 日(火) 杉山孝博先生 「認知症の理解と援助～認知症になっても安心して暮らせる地域を目指して～」	4	視点①一般市民が認知症に対し興味を持ち、基本的な理解ができる講座とした 視点②関心の高い医療をテーマとして認知症の基本的な内容を盛り込んだ 課題①アンケート結果を踏まえて設定した 課題②講座内で事業紹介やパネル展示を行った [総合評価] ◎ 一般市民に対しても認知症をよく理解できる講演であり、満足度が高かった ◎ 認知症を支える地域づくりに向けた市民啓発ができた	◎ 次年度の講師及び講演内容の検討 ◎ 講座回数の増加の検討
	視点①家族介護者支援講座との棲み分けができているか 視点②一般市民にあった（参加したい）テーマ設定になっているか 課題①テーマ設定根拠の明確化 課題②認知症をささえる人材のネットワーク化			
	2) 認知症サポーター養成講座	評価		
	視点①参加を促す周知方法の工夫はあるか 視点②受講者層の年齢的な広がり確保されているか 視点③次の活動につながる検討はできているか 課題①組織への講座開催の働きかけ 課題②ステップアップ講座の検討と講師の質の向上	3	視点①様々な団体へ積極的に働きかけを行った 視点②中学校に対して集中的に働きかけた 視点③様々な機会を通してSOSネットワーク等の周知を行った 課題①メイトの個人的つながりからアプローチした 課題②日野市標準様式の教材（PPT）を作成した [総合評価] ◎ 幅広い年代での実施をめざし中学校に対して集中的にアプローチした ◎ 日野市標準様式のPPT資料作成により、講座の質が向上した	◎ 日野市標準PPTの使用 ◎ メイト同士の連絡会の実施 ◎ 企業向けの実施の検討 ◎ アプローチした相手に対するフォロー
	3) 虐待防止啓発	評価		
	視点①規模、構成、内容は適切か 視点②地域の虐待の実状をふまえ、地域に必要とされる情報提供や発信になっているか 課題①他部会との連携	3	視点①チラシを作成し自治会に配布 視点②介護疲労についても包括に問い合わせるようPRした 課題①サポーター養成講座において虐待啓発を行った [総合評価] ◎ 自治会向けチラシ回覧は初めての試みであり有効であった ◎ 広く虐待を啓発できた	◎ 関心度が高い障害者虐待、児童虐待、DV等との連携によるコラボ啓発の検討 ◎ 継続的な啓発の仕組みの検討（チラシの有効活用など）

取組みの柱	取組みの実施状況	評価	次年度に向けた課題	
3 介護サービス従事者等の資質向上 対象 介護サービス従事者 意図 認知症や高齢者虐待の理解・スキルアップ	介護サービス従事者研修 第1回：日時：7/30、8/1 14：00～16：00 「多職種連携 ～気づきをテーマに話そう～」 第2回：2月26日（水）場所：日野市役所 505 会議室 研修名：考えよう！地域における認知症高齢者とその家族への支援	4	視点①「気づき」をテーマにし、約1ヶ月前に周知した 視点②多職種連携をねらい、グループ分けの際に工夫した 視点③研修終了時にアンケートを実施 課題①昨年のアンケート結果より地域ネットワークの構築を意識し、多職種連携をテーマとした 課題②グループ分け、時間設定など工夫した 課題③研修終了時アンケートの設定を工夫した [総合評価] ◎ 事業者間の関係づくりができ連携がスムーズになった ◎ 早めの周知、時間設定などにより出席率が高かった	◎ 医師・歯科医師・薬剤師を交えたグループワークの実施 ◎ 今回参加対象にならなかった方を対象とした同じ内容の研修の実施 ◎ 開催時間の設定について木曜日、夜間等の検討
	視点①介護現場に必要なテーマ設定、開催時間の工夫が行われているか 視点②現場での活用が意図されているか 視点③研修成果を検証する取組みがあるか 課題①テーマ設定理由の明確化 課題②テーマ・目的に応じた効果的な手法の導入、開催時間の設定 課題③研修効果・評価の仕組みの具体化			
4 関係機関のネットワーク構築 対象 関係機関 意図 多様な関係機関同士の効果的な連携の推進	1) 関係機関連絡会 第1回：平成25年7月26日 「精神疾患の孫からの虐待ケース」 第2回：平成26年1月31日 「サービス利用に繋がりにくい徘徊高齢者」	4	視点①事前に事例と意見を頂きたいことを配布、趣旨説明などを行った 視点②事例に関わった機関に参加していただいた 課題①テーマによってPSWや民生委員に参加していただいた [総合評価] ◎ 各機関が補完しあいながら積極的に関わることが確認できた ◎ 顔の見える関係づくりとして有効な会だったという評価が多かった	◎ 各包括の主体的な会議の運営 ◎ 9包括にあわせた9回実施の検討 ◎ 医師や自治会長などの参加の検討
	視点①事例に際して、関係機関相互にどのような動きや連携が可能か、効果的かを共有できる会議になっているか 視点②連絡会参加者の構成は適切か 課題①テーマに応じたメンバー設定			
	2) 虐待防止マニュアルの改定 視点①長期的に関るケースに対応しているか 視点②運用にあわせたマニュアルとなっているか 視点③虐待防止の目的と課題をふまえ、関係機関や市民の動きがわかる改定になっているか 課題①マニュアル改訂の実施	4	視点①発生時対応だけでなく継続的に集結まで支援できるようにした 視点②包括から出された意見もとに検討した 視点③立入調査の詳細なマニュアルも記載することとした 課題①委員会を立ち上げ改正案を作成・決定した [総合評価] ◎ 包括が虐待対応しやすいよう、対応段階における具体的な行動や考え方を明記した	◎ 新マニュアルの勉強会の実施（包括・ケアマネ対象）
	3) SOSネットワークの充実 視点①SOS ネットワークの事業の啓発の工夫がされているか 視点②啓発結果の検証はできているか 課題①広報活動の充実・登録者数の増加 課題②広報効果の検証方法の検討	2	視点① 視点② 課題①ケアマネ交流会での広報の実施 課題② [総合評価] ◎ メール配信実績は横ばい ◎ 新しい媒体での広報活動は実施にいたらなかった	◎ SOSマニュアルの見直しの検討 ◎ 「3世代がよりそうくらし」とのタイアップによる広報の検討 ◎ 事前登録やメール配信以外の手法による啓発活動の検討

【資料編】

(1) 日野市の虐待受付状況

平成 18 年度に作成した「日野市高齢者虐待対応・防止マニュアル」に基づき、養護者による虐待として地域包括支援センターが受け付けた虐待件数は以下の通りとなっています（平成 18 年度～平成 25 年度）。また、平成 25 年度は養介護施設従事者等による虐待が 3 件発生しています。

（単位：件・人）

相談・通報受理件数 （受理件数の内、夫婦件数）		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
		7	17 (1)	24 (1)	21 (4)	35 (3)	24 (2)	30 (1)	19 (1)
虐待の種別・類型 （重複有）	身体的虐待	4	13	16	16	24	18	19	10
	介護・世話の放棄、放任		3	7	1	2	7	6	5
	心理的虐待	4	6	14	9	20	15	8	3
	性的虐待								
	経済的虐待	3	3	9	7	8	7	6	7
被虐待者性別	男 性	3	6	1	7	8	6	8	2
	女 性	4	12	24	18	30	20	23	18
	合 計	7	18	25	25	38	26	31	20
被虐待者の年齢	64歳以下	1			1	1	1		
	65～69歳		3	3	2	5	3	1	
	70～74歳			7	6	3	5	4	5
	75～79歳	2	7	1	6	12	4	4	5
	80～84歳	1	4	7	5	10	6	12	8
	85～89歳	3	2	4	4	5	4	4	1
	90歳以上		2	3	1	2	3	6	1
	合 計	7	18	25	25	38	26	31	20
被虐待者から見た 虐待者の続柄 （重複有）	夫	1	3	5	4	11	7	5	6
	妻		3	1	1	1	3	4	
	息子	3	6	8	11	14	7	13	9
	娘	1	4	7	4	9	4	7	3
	息子の配偶者（嫁）	1	2				1		1
	娘の配偶者（婿 内縁を含む）		1		1	1			
	兄弟姉妹					1			
	孫			3		1	2	1	
	不明（特定できず）	1				1			
施設従事者による虐待(単位：件・人)									
相談・通報受理件数		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
									3
業種別	居宅介護支援事業所								
	訪問介護								1
	通所介護								
	特別養護老人ホーム								1
	ショートステイ								
	介護老人保険施設								
	小規模多機能								1
	グループホーム								
	特定施設								
虐待の種別・類型 （重複有）	身体的虐待								1
	介護・世話の放棄、放任								
	心理的虐待								
	性的虐待								
	経済的虐待								2

(2) 日野市の徘徊対応状況

「認知症高齢者SOSネットワークマニュアル」に基づき、家族等から地域包括支援センターに連絡があった件数は以下の通りとなっており、徘徊者の実数は昨年度より減少しました（平成 21 年度より集計）。家族等から警察に直接通報され、地域包括支援センターに連絡がなかった場合もあるため、実際には集計よりもさらに多くの徘徊が発生していると推測されます。

また、SOS ネットワーク事前登録者数は年々増加しています。

1) 平成 21 年度～平成 25 年度（全包括）

（単位：人）

			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
徘徊者数 (実人数)	人数		21	26	35	42	30
	性別	男性	10	14	16	19	12
		女性	11	12	19	23	18
	年齢	～69歳	0	2	6	1	1
		70～74歳	4	2	4	3	4
		75～79歳	5	9	10	19	10
		80～84歳	7	5	13	11	6
	85歳以上	5	8	2	8	9	
延べ徘徊	発生件数		31	31	52	50	41
発生数	防災無線利用		2	5	1	3	0
	警察へ通報		13	20	38	30	34
	Eメール利用				9	9	16
発見数			31	31	52	50	41
	1時間以内		13	7	19	14	4
	3時間以内		7	7	13	14	9
	6時間以内		0	3	8	5	7
	12時間以内		4	4	3	3	6
	24時間以内		2	2	3	6	10
	24時間以上		0	3	1	3	2
	不明		5	5	5	5	3
発見できていない数			0	0	0	0	0

※参考：SOS ネットワーク事前登録者数及びメール配信登録者数（推計）

	21年度末	22年度末	23年度末	24年度末	25年度末
事前登録者数	42	81	129	167	195
メール配信登録者数（推計）		2,120件	5,850件	5,910件	5,853件

2) 平成 25 度 (包括別)

(単位: 人)

		もぐさ	あさかわ	すてつぷ	あいりん	せせらぎ	多摩川苑	いきいき タウン	すずらん	かわきた	計
徘徊者数(実人数)		2	5	3	6	2	2	6	1	3	30
性別	男性	1	3	2	1	1	1	2		1	12
	女性	1	2	1	5	1	1	4	1	2	18
年齢	～69歳						1				1
	70～74歳		1	1				2			4
	75～79歳	1	1	1	3		1	1		2	10
	80～84歳		1		1	2		1		1	6
	85歳以上	1	2	1	2			2	1		9
延べ徘徊発生数		2	7	3	9	2	3	9	1	5	41
防災無線利用											0
警察へ通報		2	5	3	8		2	8	1	5	34
Eメール利用		1	2	1	2		2	5	1	2	16
発見数		2	7	3	9	2	3	9	1	5	41
1時間以内			1		2			1			4
3時間以内		1		1	3	1		2		1	9
6時間以内			2	1	1		1	1		1	7
12時間以内			3		1			2			6
24時間以内		1	1	1	1			2	1	3	10
24時間以上					1		1				2
不明						1	1	1			3
発見できていない数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 平成 25 年度までの取組み

【認知症高齢者支援】

① 認知症家族介護者交流会 (専門相談会)	【内容】 認知症の人とその家族の支援を目的とした交流会							
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
	5 回	6 回	交流会 16 回/ 専門講座 2回	18 回	20 回	20 回	20 回	
② 認知症サポーター の養成講座	【内容】 市民や企業・職域団体、高校生等を対象とした認知症サポーター養成講座							
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
	4 回	22 回	24 回	31 回	23 回	45 回	46 回	31 回
③ 認知症サポーター ステップアップ講座	【内容】 認知症サポーターのレベルアップを図る講座 【実績】 H20 1 回開催							
④ 高齢者 SOS ネットワーク構築に向けた取組み	【内容】 徘徊により行方不明となった高齢者の捜索・保護の体制づくり							
	H20		H21				H24	
	マニュアル 案の作成	i SOS ネットワーク会議 (計 7 回開催) ii 「徘徊高齢者捜索マニュアル」作成 iii E メールの一斉配信システムの整備 (※徘徊発生時の情報を市民に 広く 周知する手段)				SOS ネットワーク 見直し検討 →周知啓発		
⑤ 認知症予防啓発パ ンフレット	【内容】 H21 認知症の予防啓発を目的としたパンフレットの作成及び医療機関等での配布							
⑥ 認知症地域資源マ ップ作成	【内容】 認知症高齢者や介護者の介護負担軽減等に資する地域資源マップの作成 (※H25 は包括・市が活用するデータベース作成)							
	H22		H23		H24		H25	
	マップ原案作成 のための検討会 (3回)		マップ作成のた めの検討会開催 (4 回)		マップ作成のた めの検討会開催 (2 回)		データベース作 成のための検討 会開催 (2 回)	
⑦ 認知症家族介護者 支援講座の開催	【内容】 認知症高齢者を介護する家族に対し、専門知識の習得や専門家への相談ができる機会を設けるための講座							
	H22		H23		H24		H25	
	2 回開催		2 回開催		2 回開催		2 回開催	

⑧認知症啓発講座の開催	【内容】市民を対象にした、認知症の理解を広めるための講座			
	H22	H23	H24	H25
	1回 (→東日本大震災の影響により中止)	2回開催	2回開催	1回開催
⑨介護サービス従事者研修	【内容】介護サービス従事者を対象とした、認知症および虐待防止の理解の促進および対応の向上を目的とした研修			
	H22	H23	H24	H25
	2回開催	4回開催	2回開催	2回開催
⑩関係機関連絡会の開催	【内容】困難ケースや虐待ケースに対し、スムーズな対応が図れるよう、関係機関との連携の促進を図る			
	H22	H23	H24	H25
	2回開催	3回開催	2回開催	2回開催
⑪認知症高齢者支援・高齢者虐待防止推進会議の開催	【内容】地域包括支援センターと市による認知症高齢者支援（高齢者虐待防止対策）事業の企画・推進のための会議			
	H22	H23	H24	H25
	6回開催	8回開催	3回開催	3回開催

【高齢者虐待防止対策】

①高齢者虐待防止にかかわる検討・対策会議	【内容】虐待対応のネットワーク構築の検討		
	H19	H20	H21
	高齢者虐待防止対策会議 (5回開催)	高齢者虐待防止検討会議・事例検討会 (4回開催)	高齢者虐待防止検討会議 (3回開催)
②高齢者虐待防止勉強会	【内容】関係機関職員を対象とした勉強会 H19 年1回開催		
③関係者研修	H19	H20	H21
	4回開催	3回開催	1回開催

④ケアプラン指導研修・専門相談会	【内容】ケアマネージャーと管理者を対象とした研修・専門相談会		
	H19		H20
	ケアプラン指導研修 (3回開催)		ケアプラン専門相談会 (4回開催)
⑤啓発講演会	【内容】一般市民、民生委員等を対象とした講演会		
	H19	H20	H23
	一般市民・民生委員を 対象に開催 (1回)	一般市民を対象に開 催(1回)	民生委員を対象に開催 (1回)
⑥認知症及び高齢者虐待に関する啓発パンフレット	【内容】H19 認知症及び高齢者虐待に関する啓発パンフレット作成		
⑦日野市高齢者虐待対応・防止マニュアル	【内容】対応の流れや帳票類を定めたマニュアルの作成 H18：作成 H19：改訂 H20：改訂 H21：改訂 H24：改定に向けた見直しポイントの整理 H25：マニュアルの改訂		

(4) 講座ちらし

①第1回認知症家族介護者支援のための講座

平成25年度 日野市認知症高齢者支援事業

第1回認知症家族介護者支援講座

NHK「ためしてガッテン」
でも紹介された

スウェーデン生まれの タクティールケア



～「触れて」不安や痛みを和らげる
認知症緩和ケア～

【当日のプログラム（予定）】

①講義

- 認知症緩和ケア理念
 - タクティールケア
 - タクティールケアの効果
- ##### ②デモンストレーション
- ③「タクティールケア」の体験
 - ④その他 Q&A 等



講師：原智代氏
株式会社日本スウェーデン福祉研究所
シルヴィアホーム認定インストラクター

■タクティールケアの効果■

- ・コミュニケーション能力の向上
- ・リラクゼーション効果
- ・鎮痛効果 など

「タクティールケア」は、1960年代にスウェーデンで生まれたタッチケアです。認知症やがんの緩和ケア、未熟児ケアなど、さまざまな分野におけるケアの補完的手法として用いられており、最近広まってきている新しい考え方です。

手足や背中など相手の身体を柔らかく包み込むように触れることで、相手の不安な感情を取り除いたり、痛みを和らげたりする効果があり、認知症の周辺症状（徘徊、昼夜逆転、妄想など）に効果があると言われています。また、肌と肌とのコミュニケーションを通して、ケアを行う側と受ける側の絆を深める効果もあるとされています。

タクティールケアは、安全性が高く、誰でも実践できるという点も特徴です。どうぞ、この機会にご参加ください。

平成25年

7月24日(水)

13:30～15:30(開場:13:00～)

場所:日野市 生活・保健センター 1階予防接種室

開催:日野市高齢福祉課

先着
70名

無 料

※駐車場には限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



【お申し込み・お問い合わせ先】

ご参加を希望される方は、お電話もしくは、FAXにて①住所、②氏名、③電話番号、をお伝え下さい。FAXでお申し込みの方は、裏面の申し込み用紙をご利用ください。

※ 申し込み開始は7月1日(月)となります。定員に達し次第、受付を終了いたしますので、ご了承下さい。

日野市役所 高齢福祉課在宅サービス係 電 話:042-585-1111(内線2421～2423)

FAX:042-583-4198

第2回認知症家族介護者支援講座

平成25年度 日野市認知症高齢者支援事業

認知症家族介護者交流 バスツアー

- 認知症疾患医療センター
相談員さんのお話
- セツ塚ファーマーズセンター
での交流



【平川病院（認知症疾患医療センター）】

日野市を含む広域の認知症疾患医療センター「平川病院」の相談員より、センターの役割などについて教えていただきます。また、セツ塚ファーマーズセンターでは、日野市で育てられた地場食材を使った昼食をとりながら、家族介護者のみなさんの普段の介護の悩みや成功談・失敗談などを、ご自由におしゃべりいただく交流会を予定しています！ふるってご応募ください。

日野市立 セツ塚
ファーマーズセンター



【セツ塚ファーマーズセンター】

平成26年 **2月22日(土)**

10:00～15:30

行程: 10:00 日野市役所 正面玄関集合
11:10 平川病院(認知症疾患医療センター)
13:15 セツ塚ファーマーズセンター
15:30 解散(日野駅、高幡不動駅、日野市役所にて順次解散)

主催: 日野市高齢福祉課

定員: 21名

※申込制

費用: 昼食代

500円

(お弁当持参可)

お申込み方法は裏面をご覧ください。

認知症啓発講座

「認知症の理解と援助」

～認知症になっても安心して暮らせる地域を目指して～

認知症とは？

認知症をよく理解する
ための9大法則・
1原則

認知症の原因・ 治療と予防

なぜ認知症になるのか？
早期診断・早期治療の大切さ
認知症を予防するには

認知症に なったら？

地域で支える輪



杉山孝博先生

川崎幸（さいわい）クリニック院長

杉山先生は、東京大学医学部付属病院で内科研修後、地域の第一線病院で患者・家族とともにつくる地域医療を目指し、1975年川崎幸病院に内科医として勤務、以来、内科の診療と、在宅医療に取り組まれてきました。また1981年から、公益社団法人認知症のひと家族の会の活動に参加。全国本部の副代表理事、神奈川県支部代表の他、公益社団法人日本認知症グループホーム協会顧問、公益財団法人さわやか福祉財団評議員。著書は、「よくわかる認知症ケア 介護が楽になる知恵と工夫」（主婦の友社）監修、「杉山孝博 Dr の『認知症の理解と援助』（クリエイツかもがわ）の他、多数執筆。

豊富なご経験をもとにご講演いただきます。

平成25年 **11月26日(火)**

14:00～16:00（開場：13:30～）

場所：ひの煉瓦ホール（日野市民会館 小ホール）

主催：日野市高齢福祉課

**定員
200名**

無 料

※駐車場には限りがありますので、なるべく
公共交通機関をご利用ください。



11月5日(火)から受付開始！

【申込み・問合せ先】

ご参加を希望される方は、お電話もしくは、FAXにて①住所、②氏名、③電話番号をお伝え下さい。FAXでお申込みの方は、裏面の申し込み用紙をご利用ください。

※ 11月5日(火)から受付開始。定員に達し次第、受付を終了いたしますので、ご了承下さい。
日野市役所 高齢福祉課在宅サービス係 電話：042-585-1111（内線 2421～2423）
FAX：042-583-4198

(5) 認知症サポーター養成講座 開催詳細

	実施日	対象	対象者詳細	受講者数	キャラバンメイト	
					包括名	担当者
1	H25.4.18	企業・職域団体	早稲田イーライフ日野南館	8	すずらん	相馬、廣川
2	H25.4.18	企業・職域団体	(株)宅配 多摩第一営業所	39	あさかわ	竹内、堀田
3	H25.4.25	企業・職域団体	(株)宅配 多摩第一営業所	11	あさかわ	竹内、堀田
4	H25.7.13	住民	日野市老人クラブ 「ピバシニア」	30	すてっぷ	落合、木村
5	H25.6.27	学校	社会福祉士実習生	2	あいりん	輪田
6	H25.7.4	住民	都庁4丁目アパートサロン 「あったかいてと手」	15	あいりん	樋口
7	H25.8.2	住民	「瓦版 ひらやま」のメンバー	8	いきいき	川田
8	H25.8.2	住民	近隣住民	1	すずらん	良岡
9	H25.9.3	住民	平山4-18-1 編み物の会	12	いきいき	川田
10	H25.9.9	住民	東京土建組合 日野支部 主婦の会	27	すてっぷ	落合、佐藤
11	H25.9.20	住民	地域住民	1	かわきた	菅原
12	H25.11.2	住民	マザアス日野 介護の日	10	多摩川苑・せせらぎ	浅見、片伯部
13	H25.10.2	学校	社会福祉士実習生	3	あいりん	輪田
14	H25.10.25	学校	東京都立日野台高等学校 2年6組	40	あいりん	輪田、樋口、高瀬、多和田
15	H25.10.24	学校	日野台高校	40	あいりん	多和田、高瀬、樋口、輪田
16	H26.1.20	学校	明星大学人文学科福祉実践 学科・人間社会学科	46	すずらん・もぐさ	相馬、鈴木
17	H25.11.22	住民	百草団地自治会、 ふれあいサロンボランティア スタッフ等	35	もぐさ	辻澤、鈴木
18	H25.12.13	住民	シルバーハイツやなか	9	多摩川苑・せせらぎ	磯野、片伯部
19	H25.12.10	企業・職域団体	多摩鍼灸整骨院グループ からだケア	39	もぐさ	辻澤、小堀

	実施日	対象	対象者詳細	受講者数	キャラバンメイト	
					包括名	担当者
21	H26.1.25	住民	日野市立第2中学校PTA	26	あいりん・すてっぷ	高瀬、佐藤
22	H26.1.21	企業・職域団体	JA東京みなみ	58	あさかわ	竹内、堀田
23	H26.1.22	企業・職域団体	JA東京みなみ (本店・七生支店・多摩支店)	42	かわきた	菅原
24	H26.2.12	住民	日野市ボランティアセンター 傾聴ボランティア入門講座 受講生	23	せせらぎ・多摩川苑	飯沼、浅見
25	H26.3.6	住民	介護予防教室「すてっぷ塾」	6	すてっぷ	落合、藤井
26	H26.3.11	学校	日野市立第1中学校3年生	196	せせらぎ・多摩川苑	片伯部、川田
27	H26.3.10	企業・職域団体	日野市シルバー人材センター 職員向け入門講座	19	せせらぎ	唐沢
28	H26.2.24	行政	日野市役所職員	34	かわきた・すてっぷ	鍵本、木村
29	H26.2.25	行政	日野市役所職員	40	いきいきタウン	中山、川田
30	H26.3.12	住民	平山住宅ふれあいサロン スタッフ	11	かわきた	菅原
31	H26.3.31	学校	社会福祉士実習生	1	あいりん	樋口
			合計	849		

【キャラバンメイト名簿】

平成 24 年度現在、日野市におけるキャラバンメイト（認知症サポーターの講師役）は、29 名となっています。

	受講年度	所属機関	氏 名
1	18	地域包括支援センターすてっぷ	落合 恵子
2	18	地域包括支援センターせせらぎ	片伯部 純子
3	18	地域包括支援センターいきいきタウン	川田 利子
4	19	地域包括支援センターもぐさ	鈴木 織子
5	19	地域包括支援センターあいりん	高瀬 和枝
6	19	リハビリデイきりん	多和田 圭祐
7	20	地域包括支援センターすずらん	廣川 理恵子
8	20	地域包括支援センターいきいきタウン	中山 正夫
9	21	地域包括支援センターあさかわ	堀田 志保子
10	21	地域包括支援センターかわきた	菅原 拓
11	21	地域包括支援センターかわきた	小林 尚子
12	21	地域包括支援センターせせらぎ	飯沼 一将
13	21	地域包括支援センターせせらぎ	唐沢 淳子
14	22	地域包括支援センターもぐさ	小堀 千枝子
15	22	地域包括支援センターすずらん	相馬 みゆき
16	23	地域包括支援センターすてっぷ	木村 名津季
17	23	地域包括支援センターあさかわ	竹内 淳子
18	23	地域包括支援センターもぐさ	辻澤 美由紀
19	23	地域包括支援センターすてっぷ	佐藤 淳子
20	23	居宅介護支援事業所ふれあい	市川 るみ子
21	24	地域包括支援センターすずらん	良岡 千春
22	24	地域包括支援センター多摩川苑	浅見 ゆかり
23	24	地域包括支援センターかわきた	鍵本 博子
24	24	地域包括支援センターあいりん	輪田 博美
25	24	地域包括支援センターあいりん	樋口 ゆかり
26	25	地域包括支援センター多摩川苑	磯野 悠子
27	25	地域包括支援センターあさかわ	西村 サオリ
28	25	地域包括支援センターせせらぎ	前多 亮子
29	25	地域包括支援センター多摩川苑	川田 麻姫
30	25	地域包括支援センターすてっぷ	藤井 美樹子

平成 25 年度認知症高齢者支援（高齢者虐待防止対策）事業
実施報告書

発行年月 平成 26（2014）年 3 月

企 画 日野市健康福祉部高齢福祉課
〒191-8686 東京都日野市神明一丁目 12 番地の 1
電話 042-585-1111（代表）

企画協力 株式会社 地域計画連合
〒170-0004 東京都豊島区北大塚一丁目 19 番地の 12
電話 03-5974-2021